HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	北海道大学附属図書館蔵 二巻本『宝物集』翻刻
著者	追塩，千尋
引用	北海学園大学人文論集，32：A1-A79
発行日	2005-11-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

北海道大学附属図書館蔵　二巻本『宝物集』翻刻

追塩千尋
北海道説話文学研究会

宝物集・翻刻について

北海道大学附属図書館蔵『宝物集』を翻刻するにあたって、その経緯を一言述べておく。

翻刻の責任の所在を追塩千尋・北海道説話文学研究会の名で記してあるが、この翻刻の始発となったのは、北海道教育大学名誉教授小泉弘氏の原稿である。

北海道説話文学研究会では、昭和六十二年の第六回大会（釧路）で『宝物集』を研究テーマにすることが決まった（『史料と研究』第十九号〈平成元年〉・彙報）。その後、いろいろな検討を加えて、具体化した案は二巻本の校本作成であった。具体的には、その時点で既に北大図書館本『宝物集』の小泉弘氏の原稿があり、そのコピー原稿をもとに二巻本の校本を作成していくことになった。諸本を大きく四つに分け、底本とする北大本には国会図書館蔵本（上野本）を対校してその異同を傍記、他の三グループは別に校異表の形で示すものである。

その校本の草稿は、平成七年には形を成していた。しかし、上岡勇司氏、高橋伸幸氏の相次ぐ急逝など諸般の事情により、それ以降、研究会での『宝物集』の研究の進展はなかった。

その後、いくつかの議論を経て、平成十三年からもう一度『宝物集』の翻刻に取り組むことになり、小泉氏の原稿を参考にしつつも、新たに私ども三名（追塩・林晃平・細田季男）で翻刻し、点検をするという作業を行った。また、不明の箇所については直接原本にあたって確認し、その様態を補記し、原稿を確定した。

また、既にこの翻刻本文を将来デジタル化して利用の便をは

かることも考えている。さらに、読みやすい形に整理した本文も作成している。これも近い機会に公にし、『宝物集』研究の便に供したいと考えている。

もとより、この研究の始発には、小泉氏の原稿があり、それを礎稿にして校本も作成してきたわけであり、この翻刻刊行もその延長上にある。ゆえに翻刻の経緯をここに記し、これまでの北海道説話文学研究会の会員諸氏に謝意を表するものである。

また、貴重なる図書の閲覧及び翻刻の許可を賜った北海道大学附属図書館にも謝意を表する。

（文責・林）

北海道大学付属図書館藏　二巻本宝物集　翻刻

書誌

北海道大学図書館で設えたと思われる帙には、左外題で「二巻本宝物集　慶長頃書写　二冊」とある。整理番号は「294.32 HO」。外題は表紙中央に貼題簽で「宝物集　上（下）」。題簽の右に、二冊とも直接「南哥八」と朱で書かれている。上下とも見返しに「北海道大学印」がある他、同じく上下とも末尾に古書肆反町弘文荘の印「月明荘」。購入時期は、同大学附属図書館によれば、昭和二十四年末から二十五年初めという。表紙は藍染の繊維を全面に漉き込んだ「藍漉込み紙」というべきものである。装丁は袋とじで、料紙は楮紙。寸法は縦三〇・一cm、横二二・五cm。字高縦二四・七cm、横一七・五cm。紙数上五十四丁、下六十六丁で、共に内遊紙一丁ずつ。本文は一面十行。外題、内題、本文、書き入れ（墨・朱）ともすべて同筆と思われる。

すべての句点が朱で施されているが、翻刻には反映しなかった。他にも、朱引き（いわゆる「右所、中は人の名、左官、中二は書の名、左二は年号」）が施されている。

（文責　細田）

凡例

1　底本は北海道大学附属図書館蔵写本とする。

2　改行など行配り、一行あたりの字数も底本のままとする。行頭に算用数字で行数を記した。

3　本文及び振り仮名の濁点もそのままとした。

4　翻刻に際しては、常用漢字表にある漢字はその字体を使用した。異体字・俗字も一部の例外を除いて、現在通用の字体に改めた。

5　踊り字は、想定される字句に改めた。これは、電子化した

場合の、検索の便宜を考えてのことである。

6　ミセケチなど訂正のある部分は、訂正後の本文を採用した。

7　行の補入は［　］で示す。

8　書写者は「菩薩」を一貫して「菩提」の省文「菩」の字で表記しているので、「菩」は「菩薩」で翻刻した。なお、「菩提」はすべて「菩提」のみとあり、また「菩薩」の省文「菩」は本文中一度も使用されていない。

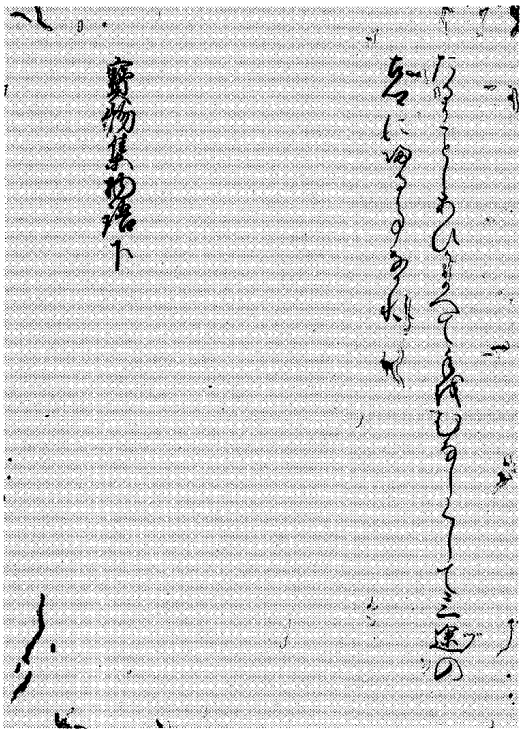
9　6及び書き入れなどの詳細は、後ろの注に一括して記す。

10　印刷の字数の都合上、原文の一行が二行になった個所がある。その個所が歌の場合、原文では書き出しが一字下げであることを踏まえ、二行目も一字下げにして揃えた。

（文責　細田）

上巻表紙

上巻1オ



下巻65オ

【北大本宝物集　翻刻】

宝物集上巻

上1オ

1　宝物集上巻
2　治承元年の秋の比薩摩ノ国の嶋を出て同
3　二年の春二たひふる郷にかへりて侍しか共世中も
4　ありしにもあらす浮木にのりけん人の心ち
5　せしかは世のうき時のすみかなれは心をもなくさ
6　めんとて東山なる所にこもりゐて侍るほとにむかし
7　花の下月のまへにて見なれたりし人あしかき
8　のまちかくきたるよしを申せは竹の編戸を
9　をしひらきていれ侍ぬこころつくしのおもひに
10　年を経ぬれはおいおとろへていきの松原

上1ウ

1　いきてかひなき命なからへて来りぬるよしを申
2　たりし三とせの夢わつかにさめたりといへと
3　も一生涯の夢はいまたさめさりける程に
4　人にもしられて侍つるにいかにしてたつねては
5　来り給へるそ鬼界の嶋の分野は申ても
6　むやくに侍るへし古郷の事風の伝にても
7　聞たて侍りき都を出て後いかなる事か侍
8　りしと申せは何となく春のつれつれをなくさ
9　めんと思ひていたつら事とも申いて侍つるに
10　けにや嵯峨の御釈迦こそ天竺へ帰たまはん

上2オ

1　するとて一ツ京の人院ノ宮をはしめまいらせて道
2　もさりやらす参り侍るなれと申せは我日本の
3　不思儀には此仏のおはするをこそしためるにまこ
4　とならは心うき事そかなしくそ侍るへきさなし
5　とてもまいらてもや有へきとおもへはやかて二月
6　廿日比に中御門をとをりておほはのむくの木の
7　本を見るにも白馬の節会思ひいたされけりさて
8　御たうにまいりつきて見けれはきくにたかはすお
9　ほくの人まいりあつまりて稲麻竹葦のやうなり
10　西のつほねのうちへいりて南無大恩教主釈迦

上2ウ

1 牟尼無上大覚世尊滅罪生善臨終正念とふ
2 しおかみて法花経のひもをときよみ侍る程に寺
3 僧とおほしきものとなりの局なる人にかたるをき
4 けは此仏の日本国へつたはり給へる事とききな
5 しつ教主釈尊正覚成給ひてのち御母伽毘
6 羅国の善覚長者のむすめ摩耶夫人の為に報
7 恩経とき給はんとて忉利天にのぼり給ひしを優闐
8 大王のあなかしこにこひたてまつり給ひて毘首羯磨と
9 いふ人にあつらへて赤栴檀をもつて尊容をうつし
10 奉りておかみ給ふ程に仏忉利天より一夏九旬

上3オ

1 はてて祇園精舎へ帰り給ふ時地蔵菩薩の金銀水
2 精の三の橋を渡し給ひしに此木像の仏も橋の
3 もとまて御むかひにまいり給ひけれは釈尊の
4 たまはく我は八十年の化縁つきて涅槃に入へき
5 なり栴檀の仏は末代の衆生を利益し給ふへ
6 き仏なりとて御さきにたててかへり給ひき天竺
7 にておほくの人を利益し給ひし程に弗舎蜜
8 と申悪王仏法をほろほし奉りし時鳩摩羅
9 琰といひし大臣の出家入道してかばかりめてた
10 くおはします仏をほろほし奉らん事をかなしみ

上3ウ

1 て東天竺の東に丘慈国といふ国へ渡し奉りける
2 に昼は仏を負奉り夜は仏にをはれ奉りけるそ
3 と申たんめる丘慈国のもうそん王あなかちに
4 よろこひてくやうくきやうし給ひける程に唐
5 のはくそん王此事をききて普闕といふ将軍を遣
6 して奪取てあかめをこなひ給ひけるを東大寺の
7 裔然上人入唐してありしに帝王此仏を聖人
8 におかませ給ひけれは裔然申ていはく我一人おか
9 み奉りてかひなく侍れは仏をうつし奉りて日本
10 国王におかませ奉らんと申けれは仏像をひ

上4オ

1 ろめんか為にゆるされにけり裔然よろこひていそ
2 きうつし奉る程に栴檀の仏夢の中につけての
3 たまはく我東土の衆生を利益すへき願有我

4 を渡すへしとのたまひけれは裔然心つきて新
5 仏をふるき仏のやうに煙をもつてふすべたてま
6 つりて栴檀の像にとりかへて日本国へ渡し奉
7 りける仏なりさては二傳の仏にてはおはせさるなり
8 裔然帰朝して宇治殿へ申奉たる文には優闐王の
9 赤栴檀をもつてうつしまいらせ給ひつる釈迦の
10 像一体とそ侍る又白鈍王といふ王の名も不審

上4ウ

1 なりふけんといふ王呂光といふ将軍を遣して
2 取たりと見ゆる物も侍り又ちやうけん等の将軍
3 をは八十人をやると申たるも侍り大江の匡衡かの
4 六波羅蜜寺にて昔忉利天安居九十日刻ニ赤栴檀一而模ニ尊
容一
5 今抜提河滅度二千年冶ニ紫磨
6 金ニ而礼両足一と書たるも此仏の御事そかしと思
7 出られてあはれなりないきの上人のほめられける
8 もことはりにそ侍るやかて帰るも木の下にて日暮
9 にけれは道もおそろしかりぬへしあけてこそ下
10 向せめとて侍る程によひの間はまいりあつまり

5上オ

1 たる人とものしりさはひて物のあはれもさむる
2 程なりしかやうやうふけゆくままにあやしの
3 下守老たる尼法師は寝入たるなるへしものの心
4 ある人々はかり目をさましつつこしかた行末の事
5 まてかたる程にあまり物をいひはやりてある人の
6 いへるは抑人の身には何か第一のたからにてあら
7 むといへはそばよりさし出ていふやう人の身には
8 かくれみのといふ物こそ第一のたからなれくい物ほ
9 しきもの心にまかせてとりかくしていはん事を
10 もきく又ゆかしからん人のかくれんをも見るへき物

上5ウ

1 なりこれ程のたからやはあるといへはそばより人出
2 て物をねかはんにいかて人の物をとらんとは申へき
3 それはぬす人にてこそあれ龍樹菩提の陰形の
4 法そらあらはれて下法をすてて菩提の行にお
5 もむきて馬鳴の弟子に成給ひにきされは有人
6 ふたりつれて道をゆくにこかねを見つけなから
7 これをとらすともしたるものの何とてこれをは

8　とり給はぬそといへは天しる地しる汝しる我しれり
9　ぬしにしられぬ物をはいかてかとるへきとてつゐに
10　とらす四知をはつるとはこれをいふなりかしこき

上6オ

1　人は人のあたふる物なれともとるましき物はとらす
2　されはうちてのこづちといふ物こそいみしきたから
3　なれひろき野に出てすみよからむ家つかひよからむ
4　下べ馬牛くひ物にいたるまてうちいたすなりこれ
5　こそ人の物をもとらずめてたきたからなれといへは又
6　そばよりうちてのこづちはたからなれともくちおしき
7　こと一つありそのゆへは鐘のこゑをだにきけはうち
8　出したる物ともこそこそとうすることのあるなりさやう
9　の時ひろき野中にたたひとりあかはだかにてゐた
10　らんはいと物うかるへき事なり貧苦よりもおと

上6ウ

1　ろへたるくるしみはたへかたきなりされは天人の五
2　衰は地獄のくるしみにまさると申せは無益にて侍
3　るへし又昔よりかくれ蓑うちでのこづち持たりと
4　申物きこえ侍らすかくれ蓑の少将と申物語にあら
5　まし事をつくりて侍るとこそうけたまはれたた金に
6　過たるたからなし火にいれともやけす水にいれ
7　ともくちせすいよいよひかりをます物なり千両のこ
8　かねとていみしくきこゆれともちいさき物に入てみ
9　にそへてもちぬへしされは天平勝宝廿一年の春
10　むつの国より砂金はしめて奉りたりしに我

上7オ

1　君も国におほきなるてうほうまいりたりとて大伴
2　のやかもちに歌めされけるに
3　すへらきの御代さかへんとあつまなるみちのく山にこか
　　ね花さく
4　とはよみけれ天に五行有金其中ニ至る地に七宝
5　あり金をもつてはしめとせり仏を金人と申御門
6　を金輪聖王と名つく神を金峯山おはす経に
7　金光明経あり仏もこれを宝と思ひ給へり智者
8　もこれを宝といふ金の宝なるゆへにをのをの金の
9　字を具するなりと申せは又そはなる人さし出て金
10　はまことに火にもやけず水にもくちせねともぬす

上7ウ

1 人にとれてはいたつら事也天竺にて仏阿難をく
2 して道をとをり給ふに草むらの中に光ありその
3 中にこかねありこれを仏御らんして毒蛇ありとの
4 たまふ阿難これをさとりて大毒蛇なりとうけこひ
5 給ひぬある人これを見れは蛇にあらてこかねありけ
6 れはよろこひてとりぬ此事をおほやけきこしめさ
7 れてめしけれはちからをよはすこれをまいらせけるに
8 なをものこりそあるらんとてせめをかうふる時にこそ
9 仏の毒蛇とのたまひし事をおもひあはせける又ある
10 兄弟おやのてよりをのをの五百両のこかねをえて

上8オ

1 かへる道にておととかのこかねをすてけるを兄何ゆへに
2 すつるそととひけれはをととなくなくかたりていはく
3 五百両のこかねをもちたるゆへに兄のもち給へる五
4 百両をうばひとりて千両になさばやと思ふ一ねん
5 おこりぬされはこかねはうたてき物とおもふがゆへに
6 すつるなりといひけれは兄なみたをなかして我も
7 なんちをころして五百両をとりて千両になさは
8 やと思ひつるなりとて五百両のこかねをすてにけり
9 これを断金の契りといふなりされはこかねをも
10 たからといふへからす玉にまされるたからやはあるへき

上8ウ

1 花厳経には一切のたからの中に如意宝珠すくれ
2 たりと見えたりまことに心のことくなる玉をえては
3 五こく七宝なにかとほしかるへきされは稲麻経には
4 現世をいのるはわらぢをこふるかことし後世をいのるは
5 いねをこふることしといふなりいねをえつれはねか
6 はざれともわらちをははくへきもの也又玉をうれは
7 ねかはされともこかねはふるへきなりといへはまたそ
8 ばなる人のいはく玉はたからなりといへともすゑの凡
9 夫は玉をたからともしるへからすことにみがくやうを
10 もしらすされは弘法大師は玉みがかされは光なしひかり

上9オ

1 なきをは石かはらとすとそおほせられけるされはい
2 つれのたからもむやくなりつくつく物を思ふに子に
3 過たるたからなしそのゆへは人のおひおとろふる

4　事貴賤賢愚によらすくろき髪はしろくなり
5　あかきいろはくろみかじけてひたいには四海のなみ
6　をたたみまゆにはしやうざんの霜をたれ骨こはく
7　こしかかまりてあまきあちはひはにかくなりやはら
8　かなる水はこはくなりてよろつ心にかなはすさ
9　れは太天わうははしめてしろきかみすちのおふ
10　るは閻魔王の一番のつかいつきたりとて出家

上9ウ

1　しておこなひ給ひき震旦の白居易は四十六のとし
2　かたちをかかみにうつして涙をなかしてふたをおほひ
3　き又大聖世尊の五十あまりに成給ひて満月ノ尊
4　容おとろへ三十二相の御すかたやつれ給ふを見た
5　てまつりて優陀延と申御弟子のおひのくるしみを
6　なけく事侍りきいはんや末代の凡夫いかてか此くる
7　しみをなけかざらんやされは此心を詩にもつくり歌
8　にもよめりそのせうこを申へし昔は京洛のはなやかな
9　る客たり今は江湖のおちふれたる翁となれりと
10　つくりたりまた歌に

上10オ

1　いつかたに身をはよせまし世中に老をいとはぬ人もなけ
　　れは
2　かはり行かかみの影を見るからにおひその森のなけきを
　　そする
3　いつとても身のうき事はかへらねと昔は老をなけきやは
　　せし
4　まことにおひのすかたふりにけるかたちをは見る人これ
5　をにくみきく人かれをいとふなり子にあらさらん人たれか
6　あはれむへき人の子のおやのためにたからなる事かつ
7　かつ申へし孟宗といつし人のおやとしおひおとろへ
8　て物くはざる病をしけるか霜月のすゑしはすのをよ
9　ふ折ふしたかんなにあらは物くいてんとねかいけれはたけ
10　のことふ物は四月のすゑ五月のはしめはかりにこそ見

上10ウ

1　ゆれ今は竹のはやしには霜ふり雪つもりていかに
2　もとむるともえんことかたしとはおもひなから孝養の心さ
3　しふかき物なれは雪霜をかきわけて竹のねこと
4　をほりもとめしかは雪の中のたかんなをえて老た

5 るおやのやまひをたすけ侍りき子にあらさらん物い
6 かてか雪の中のたかんなをもとむる事あらんや又伯瑜
7 といふ人の母きはめてはらあしく心たけくして伯瑜
8 をうつ事いとけなかりし昔よりせいしんの今にいたるま
9 てをこたる事なし母やうやうおひおとろへて又子をう
10 ちける時伯瑜かなしめり母あやしみてなんちをうつ事

上11オ

1 むかしより今にいたるまてたゆる事なし然とも一
2 たひもなく事なかりしに何とて今はしめてなきかなし
3 むそとといけれは伯瑜かいはくわか母のわかくさかりにお
4 はしましつる時のつえは身にしみていたかりきことし
5 はおいおとろへ給ひたるにや打給ふつえ身にしみ
6 いたむことなしされはわか母のよめいすくなく成給へ
7 る事のかなしき也まつたくつえのいたきになくには
8 あらすとそいひけるこれのみならす丁蘭か木郭巨
9 かこかねのなへ白年かふすま王祥か氷の魚みなこ
10 れ教養の事なり丁蘭は母うせてのち母のかたち

上11ウ

1 を木をもつてきさみいきたりし時のやうにつかへし
2 なり郭巨はおやをやしなはんかためにかなしかりける
3 子を山の中にうつみしほとにてんたうあはれみたまひ
4 て金のなへをほりいだす事ありしなり白年かおや
5 はさむかるらんとて寒夜にふすまをぬきし事あり
6 王祥かおやはみきせぬうほなけれは物をくわぬ事を
7 かなしみてこほりふさかりたる江にまかりて見れは
8 うほこほりをつきうかちてをどりあがりしなりかやう
9 の事はこまかに蒙求などやうの文にしるせりこれらは
10 みな大国の事吾朝にもかやうの事おほくきこえたり

上12オ

1 軽ノ大臣と申しける人御門よりの御つかいにもろこしへわ
たり
2 給ひけるをいかなる事か有けん物いはぬくすりをくわせ
3 て身にはゑをかきかしらにはとうだいといふ物をうち
4 て火をとほして灯台鬼といふ名をつけてありと
5 いふ事を御子の弼の宰相と申人のほのかにつたへき
6 きてかなしみ給ひて万里の波路をしのぎて震旦

7　またたつね行て見給ひけれは大臣涙をなかしてゆ
8　びをくひきりて血を出してかくぞかきたまひける
9　形は破て他郷の灯の鬼となる争か旧里にかへり
10　てこの身をすてん

上12ウ

1　これを見たまひけん御子の心のうちいかはかりか思ひ
2　給ひけんさて唐の御門にこういうけたてまつりて日本
3　へぐしたてまつりてかへり給へり子にあらさらん人はるはる
4　の海路をわけてもろこしまてたつね行人有なん
5　や此外もろこしへ渡りてととめられし人あまたあり
6　けりとなん又ある女の僧をしやうじまいらせてかたの
7　ことくなる仏事をして手箱をひとつふせにしたりける
8　を見れはかくぞよみていれたりける
9　　玉くしけかけごにちりもすへさりしふたおやなからなき
　　身とをしれ
10　されはかなはぬ人もおやの教養の心さしはふかくそ侍り

上13オ

1　けるそれならすおやに心さしふかく見ゆる人をうた
2　にて少少申へし藤原のみちのふの卿のうた
3　　かきりあれはけふぬきすてつ藤衣はてなき物は涙也けり
4　たいらのむねなかの卿の歌
5　　思ひかねかたみにそめし墨染の衣にさへもわかれぬる哉
6　みなもとのありつねの中将の歌
7　　藤衣なと一とせと契けんこれはかりこそかたみ(記念)と思ふに
8　中納言なりのりの卿の歌
9　　鳥部山思ひやるこそかなしけれひとりや苺の下に行らん
10　むかしいまの人人かやうに心さしふかくなげきかなし

上13ウ

1　む事も子にあらさらん人のたれかおもひよるへきさ
2　れは子なからん人は物うき事なり後の世まてもた
3　からとなるは子にそ有へきしんの良郭といふ人
4　と阿用子といふものと二人死して閻魔王宮に
5　めしをかれてつみのきやうぢうをたたされけるに良
6　郭は子をもちたり冥土をとふらふへきもの有と
7　てまつさしをかれ阿用子はとふらはるへき子をもた

8　さるものなりとてたちまちに地こくへつかはされ
9　にき又仏阿難をくして道を行給ふにあさまし
10　き餓鬼の心ちよげにて舞たのしむあり阿難

上14オ

1　仏にゆへをといたてまつり給へは仏阿難につけての
2　たまはく前生の罪業によりてあさましき餓鬼の
3　むくひをうけたりといへともうむところの子の善を
4　しゆするかゆへにたのしみをうくるそとのたまひけり
5　しかのみならす大もくれんそんしやは母の精提女の
6　餓鬼道におち給ひしかは僧衆を請し供養
7　し給ひしくりきによりて母のうへをたすけ給
8　ひきこれは盂蘭盆経にこまかに見えたりとい
9　ひけれは又そはなる人のこゑにて子程のたからなし
10　とのたまへとも人ことに教養の心さし侍らす人の

上14ウ

1　子のおやのためにかたきなる事を少少申へし
2　仲文章と申文に見えたりてうほといふもの父を
3　うちしかは毒蛇その身をすふゆうむといふもの母を
4　のりしかは天のなるかみおちて其身をさくまた
5　摩伽陀国の阿闍世王のいまた太子にしておはし
6　ましける時父の頻婆沙羅王をほしころしたて
7　まつりて御位をとらむとてろうにこめ給ひけれは
8　御母のいたいけふにんかなしみ給ひてやうらくに蜜
9　といふ物をぬりてしのひて大わうになめさせたてま
10　つり給ふよしを太子きき給ひてはやくほしころさんと

上15オ

1　する父の命をたすけたりとてつるきをぬき給ひて
2　いたいけをころさんとし給ひけれは耆婆月光といふ
3　二人の大臣の太子に申やう父をころすものはおよそ
4　一万八千人なり母をころすものはいまたききもをよ
5　はす母の御命をたすけ給はすは二人の大臣つかへた
6　てまつらしと制しけれは母の御命はかりたすけ給
7　ひぬ父の王をはつゐにほしころし給ひにけり
8　又貧苦なるものは子をやしなひかねてかなしむ
9　のみならすあるひはいとけなき子をすてをきて
10　めいとにをもむく時は心くるしくはなれかたき事

上15ウ

1 をなけきかなしむ臨終のさまたけとならすやされは
2 第六天の魔王は一切衆生の仏道ならむ事をさまた
3 けんとて妻子となると申ぬれはかたきと申もひか
4 事にあらずごうが河のほとりにたんごんなる女一人
5 なきかなしめる事あり阿難仏に此ゆへをとひたて
6 まつり給へは仏ののたまはく此女かたちはうるはしくう
7 つくしけれともうむところの子罪をつくるかゆへに
8 母つみにしつみてくるしむそとおほせられけりされは
9 子をたからとはろんずへからすたた子もほしからす人の
10 身はいのちにすきたるたからなし仏寿量品にいたり

上16オ

1 て久遠実成をあらはし給へり命の長き事をとき
2 給ふなりかりに栴檀のけふりとのほり給ひしかとも
3 まことに霊山の月ほがらかなり此心を歌にて少々申
4 へし藤原のもととしの歌
5 うら山し心のくもやはれぬらんわしのみ山にてる月をみ
6 て
張騫か漢武のつかひにてあまの河の水上をたつ
7 ねてかへれとおほせ有しにりうはくせいたつね行て
8 仙家に入てやかてかへると思ひけれとも七世の孫にあ
9 ひし事も命のありしゆへなりこれも仙家にてく
10 れなひの雪をくひむらさきの菊をのみしゆへに

上16ウ

1 いのちなかかりしなりされは堀河の右大臣の歌
2 あふまてとせめて命のおしけれは恋こそ人のいのち成け
れ
3 まことにいのちはたれもおしき物なれは命こそたから
4 にてありけれといひけれは又そばよりすこしなまり
5 たるこゑにて命をたからとのたまへとも老少不定
6 のならひなれは命もまことのたからにあらすつらつら
7 思ふに仏法こそ有かたきたからなれとそ申けるかかり
8 ける折ふしにはなやかなる女のこゑにて抑仏法のたから
9 にて有らんいはれをちやうもんせばやといひけれはさ
10 きのこゑなまりたる僧のいはく三宝とて仏法僧の

上17オ

1 三あり此いはれをは一代教主釈迦如来のとかせ給ひぬ

2 れは愚僧はしめて申ぎにあらす天竺に国王おはしまし
3 き名をは普安大王と申きとなりの国に四人の国王
4 のおはしますかをろかなる事をかなしみて方便をも
5 つてをしへられたり四人の国王をむかへて山海
6 の珍物をととのへ玉のさかつきにてゑいをすすめ給
7 ふついでに普安大王ののたまへるは抑四人の国王
8 何事をかこのみおほしめすととひ給ひけれはをのをの
9 心うちとけ給ひて一人の王は我つねに国王の位に
10 て大臣公卿にいねうせられ百姓万民にあふかれてあ

上17ウ

1 らまほしとそのたまひける一人の王はつねに父母六親
2 眷属にそひてたちゐのすがたを見えはやとお
3 もふなりとのたまふ一人の王はわれつねにかたちよき
4 人にむつひてあけくれたはふれあそひてあら
5 まほしとその給ひける一人の王はわれつねに春
6 の野に出て花を見こまつを引てあそはんと
7 思ふとの給ひけるをのをのかやうにのたまひて後
8 さて普安大王は何事をかこのみおほしめすとあり
9 けれは普安大王こたへての給ふ我は十善のくらゐ
10 に居てたのしむ事はめてたけれとも妻子珍

上18オ

1 宝王位は後の世まて身にしたかひつく事なし父母
2 六親けむそくにあひそひて教養の心さしをいた
3 さはやとはおもへとも生死無常心にかなふへからす
4 またかたちよき人にもそひはつる事あるへからす
5 されはあしたには紅顔ありて世路にほこれとも暮
6 には白骨となりて郊原に朽ぬといふ本文ありま
7 ことにいまたわかくさかりなる時はこうかんすいたいはな
8 や
8 かなれ共老おとろへて命つきぬれは野原に朽て
9 白骨はかりのこれり又春の野に出て霞にうそふき
10 花にたはふるる事はおもしろけれとも春をととむるに

上18ウ

1 春ととまらすたたしはしの興なるへしたたわかために
2 生生世世まてたからとなれるかゆへに仏法といふ物こそ
3 しんかうししゆきやうして侍れとのたまひけれは四人
4 の王普安大王のこと葉をかんし給ひてやかて

5　仏の御もとへまいり給へるこまかに五王経にとき
6　給へりまことによろつのたからにはあふ事ありといへと
7　も仏法のたからにあふ事のかたきなりされは法花
8　経にも一百八十劫空過無有仏三悪道増長阿修羅
9　亦盛この経文の心は一百八十劫むなしくすきてのち
10　は仏まします事なし悪道いよいよ増長して阿修

上19オ

1　羅といふ外道さかりなるへしと也またいはく無量無数
2　劫聞是法亦難能聴是法者此人亦復難この文のこころ
3　は無量無数劫にも此法をきく事かたしきかんものは
4　此人またかたしとき給へるなりされは顕蜜の聖教
5　八宗にわかれて経論およそ五千三百十二巻なり
6　舎利弗ノ智恵富楼那ノ弁舌なをしおよふところにあ
7　らすいはんや凡夫のわれらにをひてをやいかてかの
8　へ侍るへきしかりといへともゐ中山寺にしはし侍りしか
9　勧学院のすすめのもうきうをさへつり七金山の鳥
10　にはきいろなるつばさのおふるなるやうにをのを

上19ウ

1　うけ給ひしは諸行無常を観ずるを仏法の大意
2　とは申とこそうけたまはれ大聖世尊四十余年の間
3　おほくの法をとき給へるにもみな諸行無常なりとこ
4　そとき給へされは金剛般若経は一切有為法如夢
5　幻泡影如露亦如電応作如是観この経文のこころは
6　一切のあるところのものはみな夢まほろしあはかけ
7　のことしつゆのことくまたいなつまのことしかくのことく
8　くわんすへし又出曜経には此日已過命即衰滅如
9　少水魚斯有何楽この文は今日すてにすきぬ
10　命すなはちめつしてすくなき水のうほのことしこれ

上20オ

1　いつれのたのしみかあらんとなり又維摩経の十喩と
2　て十のたとへにも此身は水にやとれる月のことくいな
3　つまのことく夢のことしなとと申たれははやく諸行無
4　常を観して仏法のたからとおもひ給ふへきなり
5　されは維摩経の心を紀貫之かよめる
6　手にむすふ水にやとれる月影のあるかなきかの世にもす
む哉

7　又権僧正やうえんか歌に同経の心をよめる
8　長夜の夢のうちにて見る夢はいつれかうつついかかさた
　　めむ
9　されは諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅為楽と
10　観せん人はみな仏法のたからをまふくる也諸行無常は

上20ウ

1　天にのほるはし是生滅法はあいよくの海をわたる
2　舟生滅滅已はつるきの山をこゆる車寂滅為楽は八
3　相成道の仏果なり此ゆへに釈迦如来いんいの御時
4　雪山童子にておはしましけるにてんだいしやくの羅
5　刹といふ鬼にへんし給ひて諸行無常是生
6　滅法の二句をさつけたてまつりし時童子のたまはく
7　此文にはいまたすゑの句有へしおなしくさつけ給へ
8　とおほせられけれは羅刹のいはくさつけたてまつる
9　へけれともうへにのそみてありわれは人のちを
10　すふ物なり童子の命をわれにあたへ給ははすゑの

上21オ

1　句をさつけたてまつらんといへは童子のいはく命をあた
2　へたてまつりて後は何のもののさつかり候へき先末の二句
　　を
3　あたへ給へちやうもんして命をすつへしとのたまひし
4　時生滅滅已寂滅為楽の文をさつけたてまつりぬ童子
5　此文を聴聞し給ひてすてにけはしき雪山の峯
6　より谷にむかひて身をなけ給ひし時羅刹御身を
7　うけとめまいらせて御身の心を見む為也命をすて
8　給ふへきにあらすとのたまひけりされは半偈に身
9　をなぐるといふ事は此因縁なり祇園精舎の鐘も此
10　文をとなへしなりいはんや蜉蝣のあたなる命にて

上21ウ

1　いかか諸行無常を観せさるへき羯鹿のはかなき身也
2　なんそ是生滅法をさとらさらむいつるいきは入いきを
3　またす石火の光りのうちにいくばくのたのしみ
4　かあらん天衆人王の位をうけたりといふとも何のゑ
5　きかあらんいはんやそのしたしたにをひてをや主に
6　つかへ人をたのみてかなはぬ世路をいとなみていたつ
7　らにおいおとろへて冥途の旅におもむかん事あさ
8　ましき事也かしこき人はみな過去遠遠を流転を

9　観して名利をはもとめぬ事也されは許由といつ
10　しものは位に即へきよしを聞聞て潁川といふ河

上22オ

1　にて耳をあらひしかは巣父といふもの此よしを聞て
2　其河のなかれをきらひし也これみな諸行無常を
3　観するゆへなり無言太子の十年物をいはす別成
4　太子の七度まで位を辞し給ひしも是生滅法
5　をさとり給へるゆへなりされは荘周といつし人の
6　夢に百年の間小蝶に成て花の上にすみけるかお
7　とろきて夢かうつつかとわきかねてそありける此心
8　を大江のまさふさの卿の歌に
9　百年は花にやとりてすこしてき此世は蝶の夢にそ有ける
10　これならす心ある人は此世をはさらにうつつとはおもはさ

上22ウ

1　るなり大江のまさひらの歌に
2　夜もすから昔の事をみつる哉かたるやうつつありしよや
　夢
3　むかし天竺の国王我国のうちに仏法を信せんもの
4　をは命をたつへしといふ宣旨をなしたまひけるにた
5　に五百人の中の第一きさき一人命を王にたてま
6　つりて仏法をあかめ給ひきこれ又諸行無常を
7　観して後の世をなけき給へるゆへなりされはあさ
8　ましき穢土に心をととめて後の世をいとはさるものは
9　たてはむ虫のかんろのあぢわひの有事をしらさるかこ
10　としまことに井の中のかいるの大海のひろきをさとらさる

上23オ

1　ににたり五こんのあたなる身はたのしみありてもひ
2　さしからす霜露のはかなき命はさかへありとてもい
3　くはくならんいはんやあるにつけてもうれへなきに
4　付てもうれへ一生はつくれとものそみはさらにつき
5　せさる物なり返返生死に着する事なかれここをもつ
6　て弘法大師は三考識といふものにおほきにたのしみ
7　おほきにわらふはおほきおとろへおほきにかなしむへ
8　きさうなりと書給へりされは正法念経には智者は
9　これゑをふくみてろうごくのうちにこもれるかことし
10　愚者はよろこびをひらいてくわうおんでんにむまれた

上23ウ

1　るかことしとはとき給へりしかのみならすこころある人は
　　みな
2　めいとのくるしみをかなしみて娑婆のたのしみをはいと
3　ひ思ふなりもうけつりつしは地こくのくるしみをひたんせ
　　しか
4　は毛のあなことよりちの出し也昔シしやうぐわの羅漢一日
5　に衣を三たひあらひ給ひけるを弟子あやしみてゆへ
6　をとひけれはそれもちこくにありし事を思ひ出す
7　にちの出て衣のけかるるなりとそのたまひける一生は
8　過やすし万事は夢のことし年月はいる矢のことく
9　くれゆくなりこれを隙ゆく駒ひつしのあゆみにたと
10　ふるなりされは心ある人はかくそよめる藤原ののり

上24オ

1　長の歌
2　　山のはにかくれなはてそ秋の月此世にたにもやみはまと
　　はし
3　神祇伯あきなかのむすめの歌
4　　この世たに月まつ程はくるしきにあはれいかなるやみに
5　　まよはん
5　よみ人しらさる哥
6　　長き世のくるしき事を思へかし何なけくらんかりのやと
　　りを
7　仏ケ譬喩経にとき給ふたとへは人ふたり道を行とて
8　あらまし事にひとりかいはくたたいまもちひをみつひ
9　ろいたらんにいかかせんするといへは今ひとりかいはく
10　ひとつつくひてのこる一つを中よりわりてこそくわめ

上24ウ

1　といへはもとめたる物こそふたつはくわめといふ今一人は
　　お
2　なし道をおなしやうに行はおなしきにこそくわめと論
3　してなきもちひゆへあらそひける濁世末代の衆生は
4　このやうになき福祐をあらそひて万人といさかひ
5　論する也生者必滅とてむまるるものはかならす死す
6　るなり盛者必衰とてさかりなるものはかならすをとろ
7　るなり生あるものも生なきものもそのまま常住
8　なる物なしここをもつて行基菩提は浄土にあらさる外
9　いつれのところか心にかなふ処あらん聖衆にあらざらん

10　ほかたれか思ひにしたかふ人あらんとのたまひし也はやく

上25オ

1　この心にたかはす浄土をねかひ聖衆のたすけを頼み
2　給ふへきなり人界にむまるる事は大海のそこにはりを
3　しつめて八万由旬の須弥山のいたたきより糸をくた
4　してはりのみをとをさんよりもなをまれなる事也
5　仏法にちかつく事は一眼の亀の浮木にのほれるかこ
6　とし此たび仏法をまうけずは又いつれの時をか
7　ごせんはやく頭燃とてかしらに火のつきたるをはらふ
8　かことくいとなみてあすをまつ事なく修行し給ふへし
9　されは心ある人はかくそよめる待賢門院の兵衛か歌
10　いつまてと長閑に物を思ふらん時の間をたにしらぬ命に

上25ウ

1　唐太子賓客白楽天は人生れて百年をたもつと
2　いへとも日の数をかそふれは三万六千日也その百年を
3　たもつものは百人の中に一人もかたし老少不定のさかい
4　なれは命つきていつれの野辺いつれの山のふもと
5　にかすてられて五体ところところにさんざいしてつ
6　ちあくたとならむすらんまことに今生の身のはて
7　いかにもなけくへき事也されは清少納言がまくらさ
8　うしに
9　思ひ出る時そかなしき世中はそら行雲のはてをしらねは
10　又前斎宮大夫か歌に

上26オ

1　きえはてん夢のわか身のをき所いつれの野への草葉成ら
2　ん
2　これらの人はみな諸行無常を観し仏法のたからを
3　まうくる人なり法花経の方便品に見六道衆生
4　貧窮無福恵ととき給へり此要文の心は六道
5　の衆生を見れは貧窮にして福恵なし国王大臣
6　もまつしき人也たた仏法を修行する人のみたからを
7　まうくるものなれは忉利天の億千歳をたもつた
8　のしみも大梵王宮の深禅定のたのしみも仏法
9　を修行せんにはしかし縄をむすひ木をきさみて物
10　のかすをさためしむかしたにも心ある人は花のちり

上26ウ

1 木の葉のおつるをみて飛花落葉を観し生死
2 無常をはさとりけりいはんや欽明天皇の御代に
3 はしめて聖教此国へわたり上宮太子の御時より
4 仏法ひろまりて後心ある人はみな諸行無常なり
5 としるものは仏法の物かたりを人のすれは耳をおほ
6 いめをふさきてけつく仏法僧をあさむくなりこ
7 れみな無隙ちこくのすもりと成へき人也されは
8 飛花落葉を観したる歌仁和寺おむろのよみ給へる
9 はかなさをうらみもはてし桜花うき世はたれも心ならね
は
10 そかく法師か歌

上27オ

1 世のうさに秋の木のみもふかけれはおつる涙ももみちし
にけり
2 とかやうにねんころにかたりけれはこの女かくうけ給候へ
は
3 まことに仏法はかりたから也いまより後は仏法をたから
4 とのみ思ひたてまつるへき也さても六道の御物かたり
5 のたまひつるはなになにを申にやととへは僧こたへて
6 いはく六道をしらぬ人や候へき今の世には五つ六つ
7 のおさなきものいやしき下らうなともみなしりたる也
8 しかれとも仏の御まへにてしりなからよもとひ給はし
9 とおもへはかつかつ申へし六道と申は地獄餓鬼畜生
10 修羅人間天上これらを申なり無始生死よりもろ

上27ウ

1 もろの仏の利益にもれて鳥のはやしをはな
2 れす車の庭にめくるかことくにして六道にちんりん沈淪
3 するは仏法のたからをまうけさりしゆへなり法華経
4 に墜堕三悪道輪廻六趣中とのへ給へりこの心は
5 三悪道におちて六趣に輪廻すとの給へるなりと
6 かたりけれはこの女地獄餓鬼畜生の有さまこそ
7 きかまほしく候へといひけれは六道の事は恵心僧都
8 の一代聖教をひらひてえらひ給ひつる往生要
9 集と申物にこまかにしるされたりいまた見給はす
10 やをろをろ申へし第一に地獄といふは此閻浮提

上28オ

1 の下一千由旬にあり等活黒縄衆合叫喚大叫喚
2 焦熱大焦熱阿鼻大城なりこれを八大地獄といふ
3 なりこれにまたをのをの十六の別所をぐしたり惣して
4 一百卅十六地獄なり此山中海辺にも地獄ありとそ
5 倶舎と申文には見えたりまことにさるやらん越中
6 国立山のぢごくより近江国愛智の大りやうと申も
7 ののむすめか山臥に事つけておやのもとへ物申けるは
8 おほかた地獄のくるしみはたとへをとるとも百千万億の
9 中に一も申のへかたしとそいひおこせけるされは仏も
10 地獄のくるしみをくわしくとるはきかん物みなちをは

上28ウ

1 きて死ぬへしとその給ひけるまつ地ごくの有さまを
2 いふに天には七重の網をはり地には鉄城かたくとちた
3 りねつてつさかんにして四面に刀林のやきはとくして
4 阿防羅刹のいかれるすかた見るに心まとひ牛頭馬頭
5 のはけしきこゑきくにきもをうしなふ天にあふけは
6 つるきのはやしの葉ふりくたりてまなこをさしやふ
7 る地にうつふせは猛火もえ出て口に入なかむとすれは
8 涙おちすさけばんとすれともこゑ出す須臾刹那
9 の程もくるしみならぬ隙なしされは無隙とはひま
10 なしとかけり一日ならす二日ならす無量無数劫の間

上29オ

1 くるしみをうく一種ならす二種ならす百千万のかなしみ
2 しのびかたし阿鼻大城のくるしみ中中申にをよはす
3 さかさまにおつる事二千年なりぢこくのふかき事は
4 これにてしるへし此くるしみをうくる間は一中劫なり
5 一劫と申はたかさ四十里ひろさ四十里の石を三朱
6 の天衣とてきはめてかろき天の羽衣にて三年に
7 一たひつつなづるに紙一まいのあつさほとつふるなり
8 これをみなてつくしてある時を一劫といふなり
9 この間くけむをうけん事申も中中をろかなり
10 されは金峯山の日蔵上人無言断食してをこ

上29ウ

1 なひけるあひたに秘密瑜伽の鈴をにぎりなから
2 死に入たりけるに地こくにて延喜の帝に相たてま
3 つりけれは御門のたまひけるは地獄に来るものはかへ

4　る事はなけれともなんちはよみかへるへきものなり
5　我父の寛平法皇の命をそむきたてまつる無実
6　によつて菅原右大臣をなかしたりし罪のむくひ
7　にちこくにおちてくげんをうく此よしを我皇子に
8　にかたりてこのくるしみをすくふへしとおほせけ
9　れはかしこまりてうけ給けるを御門のたまひけるは
10　ちこくにてはつみなきものをもつてあるしとす

上30オ

1　上人われをうやまふことなかれとおほせありけるこそ
2　いとかなしくはおほえ侍りけりされはたかおかの親王
3　かくそよみ給へる
4　いふならくならくのそこにおちぬれはせつりもしゆたも
　かはらさりけり
5　此歌おもひあはせられてあはれなりちこくのゑかき
6　たるびやうぶを見て泉式部かよめる
7　あさましやつるきの枝のたはむまてこはなにのみのなれ
　る成らん
8　第二にがきたうと申は無量のくげん隙なしといへと
9　もとりわきききんのうれへしのひかたし得尸羅城の
10　かきは五百さいの間くい物をえすして子をうやし

上30ウ

1　獅子国のかきは七とまて海の山に成かへるあひた
2　くひものの名をきかすみつからなづきをくらいてうへをた
3　すけあるひは子をくらいて命をつぐされは我夜
4　生子随生皆自食ととける此経文のこころはわれ
5　よることに子をうむうむにしたかつてみなみつからく
6　らふなりくわしく像法さう経にとけり木のみを見
7　てとらんとすれはつるきとなり水を見てのまんと
8　すれはほのほとなるはらの大なる事は大海のこと
9　ししゆみせんをくらふともあくべからす口のせばき事は
10　はりのあなのことしけしをのむとも入へからす経論には

上31オ

1　人間にもかきは有といへりびんぐうなる人をいへるか
2　ゆうせい法師か歌によめる
3　河をみてのめはほのほとなる物をいつくをさしてやせ渡
　るらん
4　第三に畜生道と申は残害のくるしみ忍ひかたし

5 大象地にたけれともいまた獅子王のをそれを
6 まぬかれす毒龍海にわだかまれともなを金翅
7 鳥の難をはなれかたし雉はたかのためにとられ蛙
8 はくちなわの為にのまるねこのまへのねすみ
9 うのさきのうほいつれか残害をのかるへき長き
10 物はみしかきをのみ大なる物はちいさきをくらふしか

上31ウ

1 のみならすわしは羽の為にころされとらはかはの為
2 に命をうしなふ但念水草のたくひはをもきにを
3 をひて坂にむかひ五百由旬の蟒の身はちいさき
4 むしの為にくらはるる蒼海のうほはくらきをいとひ
5 てしゆつりをもとめ雪山の鳥はひかりにあひて無
6 常を観すあるひは色にふけりて命をうしなひ
7 あるひは蛛の家にかかりて身をほろほすそう
8 して三十四億しゆのすかた一つとしてくるしみを
9 うけすといふ事なしことに畜生道にむまるる物
10 は出る事かたし其ゆへは犬に成ぬれはおほくしゆ

上32オ

1 みのことくかはねのつもるまて犬と成鳥となりぬれ
2 は過去八万劫かさきなを八万劫未来八万劫のす
3 ゑ又八万劫鳥と成ゆへに生をたくわふるとかきて
4 ちくしやうとよむ也されはたかとをの大貳ちくしやうだ
5 うへおちぬるよし子の夢に見えけるかよめる歌こそ
6 あはれなれ
7 おく山の行衛もしらぬ谷そこにあはれいつまてあらんと
すらん
8 第四にしゆらたうと申は嗔恚さかりにして悪心さむ
9 る時なし一日に三時のたたかひあり天鼓自然鳴
10 のなけきありくわしく申にをよはす諸阿修羅等

上32ウ

1 居在大海辺自共言語時出于大音声といへり此文
2 の心はもろもろの阿修羅大海のほとりにありてみつから
3 ともにいひかたらふ時大音を出してせめたたかひくるし
4 みをうくるなり天鼓自然鳴のなけきこれなり第五
5 に人間と申は我等衆生の事也寿命経には八十六のく
6 るしみをあかせりと申せとも常には八苦とそ申なり

7　八くといふは生と老と病と死と怨憎と愛別と求
8　不得と五盛陰と也されは一に生苦は人母のはらに
9　やとりて三百日あるひは二百六十日業の風にふかれ
10　てはしめて生れ出る時はいきたるうしのかはをはきて

上33オ

1　むはらのなかにをい入るるかことしまたふすまをもつて
2　うけとるといへとも百千のつるきをもつてきりさく
3　かことしといへり此ゆへにあか子のはしめてなく声は苦
4　かな苦かなといふなり二に老苦と申はさきにも申たりし
5　ことく年月つもりぬれは老おとろへてくろきかみは
6　しろくなり色かしけてこしかかまりてたちゐ心にまかせ
7　す子にも人にもへたてられ心をのふる事もなし
8　ちり残りたる花のかせをまつかことし三に病苦と
9　申は四百四病一としてやすき事なしかしらねつし
10　身ほとほりむねさはきはらふくれいつれかたへて

上33ウ

1　忍ふへきしかのみならす子やめはおなしくおやもや
2　む女やめはおなしくおつともやむ五百身分のいたきの
3　みにあらす物の心ほそくいのちのおしきくるしみ
4　のそふなりその心そうくわうこうくうの歌に
5　むねにみつ思ひをたにもはれすしてけふりとならん事そ
　かなしき
6　またやまひ大事に成てせみのなくを聞て梅つほの
7　女御
8　明日までも有へき物と思はねは今日日くらしの声そかな
　しき
9　又やまい大事に成て月のあかかりけるをみて藤はらの
10　けんし

上34オ

1　いにしへは月をのみこそなかめしに今は日をまつ我そか
　なしき
2　やまひ大事に成ける比雪のふりけれは良暹法師
3　おほつかなまた見ぬ道をしての山雪ふみ分てこえんとす
　らん
4　やまひ大事になりけれは法師に成て刑部卿のりかね
5　はかなしなかしらの雪はきえはててたまたまのこる露の
　我みは

6 病はまことにたへかたく忍ひかたき事なれ国王大臣も
7 ところををかす冷泉院三條院なとも御病ゆへにこそ
8 はやく位ををりさせ給ひけれ承暦の比天下に世
9 中うちおこりて一人もなくたはふれふして侍けるに
10 但馬守国高神拝しに下りけるに子の有けるかおや

上34ウ

1 のともにくたりけるにある宮にわらはなるはしたもの
2 有けるを心さしふかくおもひけるかやまひつきけるよし
3 をつたへききてとる物も取あへすのほりてさふらひける
4 宮をたつねけれは人のいむやまひなれはしる人もな
5 しおほかた朱雀門のあたりへ出されにきといふ事は
6 かりを聞て心うくかなしくてやかて朱雀門に行て見
7 れはしかしかそれとはおもはねともこもにいふもの引
8 まはしてしつらひける中にうつくしかりしみとりの
9 髪はちりあくたにむすほほれきたる物にはちう
10 ちつけて両のめを烏にぬかれて木のふしのぬけ

上35オ

1 たるやうにて有けるをよくよく見れはかの女なり心
2 うくかなしくて三井寺へ行て出家しておこなひけ
3 りされはやまひにやつれぬれはうつくしき人もなき
4 なりわか心にまかせたる恋のやまひさへしのひかたき
5 もの也右大弁ちかむねの歌
6 紅の恋の涙のいかなれははては朽葉に袖のなるらん
7 又貪嗔癡の三毒の病といふ物あり耆婆扁鵲か
8 れうちもをよはすまつしきものはよろつの物をも
9 とめ人の物をほしかりわか物をおしむなりこれをとん
10 くといふなりむかし一人のちやうしやあり名をはたう

上35ウ

1 だいやといふ金をおほくたくはへてもちたりけるかを
2 き所を妻子にしらせす今生の縁つきて後犬にむ
3 まれてこかねの有あたりをありきけれとも妻子
4 ともたうたいとはしらすしてにくみて打たたく事生生
5 世世のかたきのことしなかくしゆつりなくしてくげんを
6 うくされは経の文に諸苦所因貪欲為本とき
7 給へり此経文の心はもろもろのくるしみのよるところは
8 とんよくをもつて本とする也とのたまへり一切のあく
9 ごうのみなもとはたたとんよくの心よりおこるなり

10 これをよくよくつつしむへし次にしんといふははらを

上36オ

1 たて心にいかりをなす事也仏霊山のこけの庭に
2 して御せつほうありし時一人の龍王法座につら
3 なる仏過去の流転をかかみての給はくなんちむかし
4 一念のしんいによりて大蛇のほうをうけたり今其か
5 たちをあらはしてなんぢにしんいのつみをしらせんと
6 おほせありけれは仏眼のちからによりて二万由旬の大
7 じやのかたちをげんすこれのみならす一生涯の間
8 つくれる所のくどくぜんこんしゆみせんのことくなりと
9 いへとも一念のしんいをおこせはせんこんのたきき
10 しんいの猛火にやきうしなはるるといへり此病いか

上36ウ

1 にもれうちすへき也次に癡といふはぐちにしてを
2 ろかなるをいふ也ぐちなれは仏法の名字をもきかす
3 されはいんぐわのことはりをもしらすされは善悪をもわ
4 きまへすされはとんよくじやけんにもははからす破戒
5 罪業にもをそれすこのゆへに大地こくにおちて
6 生生世世にくをうくる昔一人のぐしやあり父をつれ
7 て道を行に木陰にやすむに蚊といふむし父の
8 ひたひにくひつきたりけるを大きなる棒にて蚊
9 をうちける程におやともにうちころしけりおやを
10 ころさんとはおもはねともくちなるによりて逆罪を

上37オ

1 ほんしけるなり四百四病はたた一しやうの間のやまひ
2 なりとんしんちの三とくのやまひは生生世世のや
3 まひなり此たひよくよくれうちして長き世のやま
4 いをはなれ給ふへき也第四に死苦と申は一切のく
5 るしみいつれも忍ひかたしといへともことさら死
6 苦をもつて第一とするなり八万四千のちんらうも
7 むより大毘嵐風といふかせ吹来りて四十四のつぎ
8 めことにもろもろの病せめ来るしたすくみまなこかへり
9 ていはんと思ふ事をもいはせす見んとおもふ物をも
10 見せすちやうこうかきりあれは神にいのれともしるし

上37ウ

1 なく仏になけけともかひなしやうほうちうかくすりもか

2 なはす保憲清明かまつり事もいたつら事也死苦の思
3 ひかたきのみならすよろつについて此世のはなれかた
4 くしたしきをもうときをもいはすあいみる人ことに
5 名残おしきくるしみのあるなりかりそめにほかへ行て
6 やかてかへらん事もわか心にまかせたる道さへ家をたち
7 出れは名残おしきならひ也いはんやいまた夢にも
8 見ぬいかなる世界いかなる国へおもむきていかなるめに
9 かあはんすらんもしらぬに一日かた時もはなれかたき
10 おんあいをふりすててたたひとりさし出てゆかん心

上38オ

1 の中をしはかり給ふへきなり今生のえんつきぬれは
2 おもてをならへしをや子なれともおそろしくすさましき
3 心出来てはやくすてん事をいとなむなりされは孟
4 嘗君か三千の友冥途の旅にはともなはすせきりん
5 か二千の友も生をへたつれはあふ事なしひとりちうう
6 やみちにむかひさまさまのくけんをうけてゑんまのちやう
7 にいたりてつみの軽重をたたさるる時つみなきよしをち
ん
8 すれともじやうはりの鏡にくもりなくあらはるれはつくり
9 し罪をくひかなしみて娑婆世界のをや子親類を見
10 ていかかすへきとおめきさけへとも生をへたつれは

上38ウ

1 見ゆる事なくしてこたへとふらふものもなしたたいたつ
2 らのひとりことにてつゐになさけなきこくそつの手に
3 わたさるるなりここをもつて大集経には妻子珍宝及
4 王位臨命終時不随身唯戒布施不放逸今世後世
5 為伴侶とあり此経文の心は妻子珍宝及王位はいの
6 ちのおはりにのそむ時は身にしたかはすたた戒と布施
7 のみそ今世後世の友となりぬるとき給へるなり
8 又摩訶止観には冥冥として独行たれか是非をとふら
9 はんあらゆるところの財宝いたつらに他のためにありとと
か
10 れたり又倶舎論には再生汝今過盛至衰将近焔魔王

上39オ

1 欲往前路無資粮求住中間無所心とあり此心はたまたま
2 生れてなんちはさかり過ぬおとろふるにしたかひて閻
3 魔王にちかつきぬさきへゆかんとすれは旅のかてなし

4　中の間にすまんとすれは身のをき処なきとあり
5　されはゑんまわうのつかいはたかきをもたつときをも
6　きらはす玉しゐをうはふ也こくそつはかしこきをもを
7　ろそかなるをもえらはすかしやくするなりされは大国の
8　堯舜の賢王も名のみのこり日本の延喜天暦のひ
9　じりの御門も影をたにもととめ給はすいはんや月
10　卿雲客にをいてをや楊貴妃李婦人のたへなりし

上39ウ

1　姿をみても牛頭馬頭はなさけをのこさす衣通姫
2　小野小町かやさしかりし心にもごくそつははぢす
3　秦始皇かこらうの心ありしも梁の武帝かいさみの
4　たけかりしも頼光頼信かはかりことのかしこかりしも
5　ゆいかうちらいか人におぢられしもひとりととまる事
6　なし皆三途の故郷にかへりにき天にのほり海に
7　いりいちにましはり山にうつもれ神通方便をえ
8　たりし四梵士もつゐに死苦をまぬかるる事なし
9　此心をよめる歌
10　さりともと八重の塩路に入しかと底にもおひの波は立け
り

上40オ

1　西へ入日は東にかかやき春北へとふ雁は秋みなみへ来
2　りむまるる人はかならす死ての後ふたたひかへる事なし
3　かはねはのこりてよもきかもとにくち玉しゐはひと
4　り冥途のくるしみをうく心あらん人たれかこれをか
5　なしまさるへき此心をみなもとのしたかふか歌によめる
6　草枕たひとはたれかいひをきしつゐの栖かはみ山也けり
7　僧都けんしんか歌
8　人の身を夢の命といひけるはつゐには野へにをけはなり
けり
9　又よみ人しらす
10　皆人の命を露にたとふるは草むらことにをけはなりけり

上40ウ

1　かくせい法師かよめる
2　思ひきや君か栖かをそれそとてよもきか本をきつつみん
とは
3　左京大夫あきのりかよめる
4　野辺見れは昔の人やたれやらん其名もしらぬ苔の下かな
5　第五に怨憎会苦と申はよろつにつけてうらめしき

6　事を申也花をみれは風にちり月を見れは雲にかくれ
7　いつれもかやうの事也此心を素性法師か
8　花ちらす風のやとりはたれかしるわれにをしへよ行てうらみん
9　うちのたたのふかむすめのよめる
10　月影の入をおしむもくるしきに西には山のなからましかは

上41オ

1　僧正けんかくかよめる
2　なかむれは月かたふきぬあはれわか此世の程もかくはかりこそ
3　されは恋しき人のおなし心ならぬもせつにうらめしくて徳大寺
4　左大臣さねよしかよめる
5　夢にたにあふとは見えよさもこそはうつつにつらきこころ也とも
6　中納言さねいへかよめる
7　いとはるる我身ならすはいかにして人のつらさを思ひしるへき
8　おとこのものおもふさへかくのことしまして女は心ふかきも
9　のなれは愛執をととめておつとをうらむる事あり返返
10　つみふかくそ侍りぬる中宮のかづさかよめる

上41ウ

1　さきの世の契りをしらてはかなくも人をつらしと思ひける哉
2　周防の内侍かよめる
3　契りしにあらぬつらさもあふ事のなきにはえこそうらみさりけれ
4　藤原のなりつねかははのよめる
5　さのみやは我身のうきになしはてて人のつらさをうらみさるへき
6　よみ人しらす
7　よしさらは心のままにつらかれよさなきは人のわすれかたきに
8　しかのみならす北野の天神はつくしになかされぬもろ
9　こしの一行阿闍梨掛羅国へなかされ給ひきこれみ
10　な怨僧会苦のほうなり第六に愛別離苦と申はわかれ

上42オ

1 をおしむをいふなり前世よりの宿習なれはあるひは年
2 久しくちきりあるひは新枕めつらしくてあいしうふかく
3 思ふゆへに更行かね明行鳥のこゑを夢にもいとと心
4 まとひてむつことつきせさるをはあかつきの別と申
5 なりみなもとの頼綱かうたに
6 いにしへの人さへけさはつらきかなあくれはなとかかへ
りそめけん
7 又人めしけき中の一夜をたにもあかさぬをよひの
8 別といふなり藤原のためたたかよめる
9 よいのまにほのかに人を三日月のあかて入にし影そ恋し
き
10 鬼界か嶋に侍りける比風のたよりにいまたいきた

上42ウ

1 るよし母のかたへ申つかはすとて沙弥少将康頼
2 さつまかたおきの小嶋に我ありとおやにはつけよ八重の
塩かせ
3 これらはいきてのわかれなれはまたあい見る事もあり
4 ぬへしたた長き別こそかなしけれ老少不定のさかい
5 なれはおやにもをくれ子にもをくれ妻にもわかるるお
6 つとにもさきたちしうにもさきたちぬる人おほし
7 母にをくれてせちになけきてけんせう法師かよめる
8 たらちめやとまりて我をおしまましかはるにかはる命な
りせは
9 子にわかれてたかをかのよりことかよめる
10 人のうへと聞こし物をしての山わかこの道にまよひぬる
哉

上43オ

1 一條殿のこれまさの御子に前少将よしたか後の少将
2 よしかたとて時めき給ふ公達おはしましきもかさをわ
3 つらひ給ひてはかなくならせ給ひにきおやの御心の中
4 いかはかりかなけきおもひ給ひけんおとときみはもとより
5 道心おはせし人にて世尊寺の梅の木の本にてつ
6 ねに命終決定往生極楽といふかねをつき給ひける
7 にあはせてたのみ給ひたりける雅円阿闍梨と申僧
8 の夢に心ちよけにてかくそ見えける
9 時雨こそ千種の花はちりまかふ何ふる里に袖ぬらすらん
10 又村上の御門かくれさせ給ひてのちあまりになけき

上43ウ

1 給ひけるにやれいならす成たまひけれはかくそよみ給
2 ひける斎宮女御
3 をくれてもこえける物をしての山さきたつことを何うら
　むらん
4 一條院御かくれの後のちの一條院なにともしらてま
5 きれありき給ひけるを見て上東門院よみ給へる
6 みるからに露そこほるるをくれにし心もしらぬなてしこ
　の花
7 中納言さねつなかくれ給ひにけれはやかて尼になりて
8 五月五日に三河の内侍よみ給へる
9 あやめ草あらぬうきねを引そへて涙そかかる墨染の袖
10 としころのつまにをくれてよみける藤原のもととし

上44オ

1 おもひやれむなしき床を打はらひ昔をこふる袖のしつくを
2 主にわかるることにかなしくそ侍りぬる賢人二君につかへ
3 すとてなかく世をそむく人おほくそ聞えける深草の御
4 門かくれさせ給ひけれはよしみねのむねさたとて蔵人
5 のかみなりける人やかて法師になりて笠置といふと
6 ころにみのといふ物うちしきておこなひゐけれは
7 人あまたくしたりけるものまいりてじゆずを一時はかり
8 すりて行ゑなく出にし人に今一たひあはせてたび
9 給へといふ声をきけは我妻のこゑにききなしてあまり
10 にあはれにてここにあるとていづべく思ひけれとも

上44ウ

1 心よはくては仏道修行はかなはしと思ひかへしてあかつ
　き
2 かたにかへるを見給へは九になるをなこをはさきにたて
3 五になるおのここをはめしつかふたちはきといふものに
4 いだかせて行を見るにかくれはつへきともおほえ
5 さりけれともつゐに名のりて出る事なしさて残の
6 公卿殿上人は御はてとて墨染なとぬきすてていろ
7 めきわたるよしをききてよめる
8 みな人は花のころもになりぬなり苔のたもとよかはきた
　にせよ
9 又かんつけのみねをといふもの別をなけきける比見な
10 れたる桜のもとにてよめる

上45オ

1 深草の野への桜し心あらはこの春はかり墨染にさけ
2 草木心なしといへとも物あはれをしれはこそ其春は
3 すみ染に咲けるとなんいまにふか草のすみそめ桜と
4 てあり又師匠にわかるるくるしみいとあさからすそ聞ゆる
5 されは釈尊八十年のけえんつきさせ給ひて御入滅
6 ちかくならせ給へは摩竭陀国より拘尸那城へおもむき
7 給ひし時栴檀みなかれはてほだいじゆの菓おちて
8 沙羅林のかせさびしく跋提河の浪すさましくして十
9 六羅漢五百の大弟子十六の大国ノ王九万三千の衆生
10 一つ心にかなしみ非情草木もうなたれ悲愛の色

上45ウ

1 見え五十二類もあしをあかき羽をたれてうれへにた
2 へける此時橋梵婆提の大師入滅我随入滅とて水に
3 成てうせ給ひぬ迦葉尊者の御滅後にありてお
4 めき給ひしこゑ三千世界にきこえけるなけきあ
5 さからすそおほしける生ある物かならすおはりあり
6 あひあふ物はかならすわかれありこれを愛別離苦
7 とはいふなり六通三明をさとり給ひたる釈尊さへ此
8 くるしみをはまぬかれ給はすいはんや濁世の凡夫にを
9 いてをやいかてくるしみをのかるへき此心は朗詠の詩
10 にも作れり生あるものはかならすめつす釈尊いまた

上46オ

1 栴檀のけふりをまぬかれ給はすたのしみつきてかなし
2 み来る天人なを五すいの日にあへり七に求不得苦
3 といふはよろつ物をもとむるにえす心にかなふ事
4 なしちたる春の日けふりたえてくい物のたくひを
5 もとむるにえすれいれいたる冬の夜衣をうる事なく
6 して寒天を明しかたし衣食の二事にともしきも
7 ののかならすよろつののそみ心にかなはすされはうつく
8 しかりける子をすてたるにきる物にゆひつけける
9 身にまさる物なかりけりみとり子はやるかたもなくかなし
10 けれ共
五月のなか雨の比かかみをうりける女のうらにかきつけ

上46ウ

1 たる歌
2 けふのみと見るに涙のます鏡なれにし影を人にかたるな

3　世中にすみわひて夫婦わきしてはなれけるか女はよき
4　人のめに成てなにはのかたへまかりたりけるにおとこは
5　あしをかりてうりけれはよめる
6　君なくてあしかりけりと思ふにもいととなにはのうらそ
　　すみうき
7　これみな求不得苦の人のよめる歌なりここをもつて観
8　世音菩薩は一切衆生のねかひをみて貧苦なる物をあ
9　はれみすくはんかためにほさつのきやうをおこなひ給ふな
　　り
10　そのいんえんをろをろ申へし昔父をは長那といふ母

上47オ

1　をはまなしら女といふものありき二人の子をもちたる
2　なり名をは早離速離といふ無常をまぬかれすして
3　母まなしら女やまいをうけてうせぬ父の長那かなしみ
4　けれとも世中のならいなれは又妻をまうけたり
5　かかりける程に天下けかち行て人みなかつへ死にけ
6　れは長那二人の子を継母にあつけて檀那羅山へ
7　行ぬ一つくいぬれは七日物ほしからぬこのみありと聞
8　て取に行たりける跡に継母早離速離を舟にのせ
9　てみるめかれといひてしまにはなちけるそのとき二
10　人の子かなしみの涙をなかしてちかいをたてていはく一

上47ウ

1　切の衆生貧苦ならんをたすけよろつの苦をすく
2　はんといふ願力により給ひてさうりそくりは観音勢
3　至と成給ひぬ母のまなしらは阿弥陀如来と成給ひ
4　ぬさてこそおや子の契りなれは阿弥陀の三尊とは
5　申けれその時はなたれし嶋は今の補陀落山なり
6　これはたたいへるにあらす経文にまかせていへる昔天竺
7　国に王あり象をかふ毎日に百石の白米をかふなり
8　折ふし一人の羅漢象に向ていはく象はかしこしわれ
9　はかなし我はかしこしざうはかなしといひてさりぬこれを
10　聞てさう物をくはすたほれふしてありけりざうかふもの

上48オ

1　此事をおほやけにかたり申けれは羅漢の呪詛したる
2　なんめりとて羅漢をめして此ゆへをとひ給ひけれは
3　羅漢のいはくむかしざうと我と同朋なりしかるにざうは
4　しやうげうのことはりをしらす施を行せしゆへに今畜

5 生にむまれたりといへとも毎日に百石の米をくふ我
6 はきやうろんをさとりしかゆへに人界に生れたりといへ
7 とも檀婆羅蜜を行ぜさりしゆへに一鉢をむなしくして
8 しよくをえかたし此事をざうにむかひて申つるなりとそ
9 の給ひけるされは一切の衆生の苦はみな前世のむくひ
10 なり仏の御弟子羅旬比丘は頭陀をすれとも食をえす

上48ウ

1 又目連の御弟子利堀尸は乞食をすれとも鉢をむなしく
2 す吾朝延暦寺の安然和尚は根本中堂の薬師仏と物
3 かたりし給ひし程にたつとき人なれとも食をうる
4 事なかりしなりつねに土なとをくはれけるなりされは
5 ひんくは人にはよらぬ事にてそ侍りぬる堯の代に九
6 年雨ふりて日のかけを見さりしも湯の代に七年
7 日てりて雨のうるほひをえさりしも吾朝の長承
8 のけかちにおほくの人とも死にうせたりし事もみ
9 な求不得苦にあいしなりしかじ生死をいとひほだい
10 をせうしてこのくるしみにあはさらんには八に五盛陰

上49オ

1 苦といふはよろつにつけて物のおそろしくあやう
2 きなり国王はぶつてんにをそれ給ふなり天変大地
3 震すれはあやしみをなし臣は龍顔におそれたて
4 まつり舟にのるものは悪風海賊にあはしと思ひ
5 山を行ものは山たちにあはしとつつしみ病をうけ
6 しとたしなむされは法花経に三界無安猶如
7 火宅とのへ給ふなり此心は三界はやすき事なし
8 なをし火のいへにいるかことしとなりしかれは三界火
9 宅は龍のひげをなつるかことく五趣輪廻は虎のを
10 をふむにたりしかのみならす世中にありふるならひ

上49ウ

1 にて人の身にしたかひてかたきといふものありおや
2 のかたき宿世のかたき其外よろつにつきてのかた
3 きはかぞふるにをよはすされはをそる事生生世世
4 にたゆる事なし返返これらの苦をのかるへきなりのか
5 るといつはたとひ人われをころさんとするとも我は
6 その人にうらみをなすへからすあたをは恩をもつてほ
7 うするといふ本文ありこの心をさとらさる人は生生世世

8　のかたきをまねくなりわれ人をうしなへは人またわ
9　れをほろほすされは経の文にあたをほうすれはあた
10　つゐにつきせすとくをもつてあたをほうすれはあたつゐに

上50オ

1　つきぬとのへ給へりこれらのくるしみかそへつくしかたし
2　これを五盛陰苦といふなり第六に天上と申は
3　快楽の数をつくしかたしといへとも五すいとて五つの
4　くるしみをまぬかれす此五つの苦は花のかつらしぼみ
5　わきの下よりあせいて二つのまなこましろき天衣
6　あかつき飛行心にまかせすひとり林の間にすてら
7　れてあふきふしてかなしめりつゐに命おはりてすな
8　わち大地獄におちて無量の苦患をうく善現城
9　はすみよかりしかとも阿鼻大城はすみにくく劫婆
10　羅樹のもとは涼しかりしかとも刀林の木の下は忍ひ

上50ウ

1　かたし身ししむらをきりやふりき帝釈の宝座には
2　居よかりしかとも熱鉄の床の上にはふしにくかりき
3　衆車苑の車はのりよかりしかとも火焔のくるまはのり
4　にくかりき白玉の軟石はなつかしかりしかとも衆合の石
5　は身をせめけり殊勝池の水はあひよかりしかとも
6　無間のかまのゆはあつかりき四種の甘露はあまかり
7　しかともねつてつのまろかせはくいにくかりき五妙の
8　音楽は心すみしかともとくしやのほゆる声はおそろし
9　かりき飛行の天衆はあそひよかりしかとも阿防羅
10　刹は情もなかりきここをもつて正法念経に天上欲退

上51オ

1　時心生大苦悩地獄衆苦毒十六不及一とき給へる
2　なれされは仏は返返この六道をめくりありき給ひて
3　ひとつも苦ならぬ所なしはやく生死をいとひはなるへ
4　しとなりかやうにかたりけれは此女なけきふかきけし
5　きにてかたはしをの給へるをきくにさへ血をはき死
6　なんするやうにおほゆるなりいはんやめいとのみちに
7　をもむきまことのくるしみをうけんにをひてをやいか
8　にしてかこの六道をはなれ候へきといへはこの僧
9　仏にならさらんかきりはいかてかはなれ給ふへきといふこ
10　の女仏にはいかにしてなるへきと申せは仏になる事
［やすしとも申つへしまたかたしとも申つへし仏に］

上51ウ

1 のかたけれはこそ無始生死より億億萬劫のあひた
2 におほくの仏の出世の利益にもれてもろもろの衆
3 生六道にはちんりんすれ法花経の六のまきにもこの
4 もろもろのつみの衆生はあくごうをもつて三ほうのな
5 をもきかすとのへ給へりされは仏になる事はかたき
6 なりしかれは天台宗の心をうけ給る時は非情草木
7 もほとけとなれりいはんや女人もきらはすけむふ
8 つもんほうの国にむまれて仏道をねかはんに
9 いかてか成仏せさらんといへはこのをんな女人は五障
10 あるかゆへにじやうぶつにもるへきやうにうけ給ひしに

上52オ

1 女もつゐにほとけとなるへきにてあるこそめてた
2 けれなに事をつとめをこなひてかほとけになり
3 さふらふへきととへはほとけになる道は一にあらす
4 たとへはわうぐうまいるに人のこころこころによりて
5 入かことしごくらく浄土に往生する道もかくのこと
6 し十二門をたてて申へし
7 第一に道心をおこして世をのかれしゆつけすへし
8 第二にふかく三ほうをしんずべし
9 第三に如来の禁戒をかたくたもつへし
10 第四にもろもろの行業をつむへし

上52ウ

1 第五に仏にならんと願をおこすへし
2 第六に生生世世に業障をさんけすへし
3 第七にもろもろの布施をぎやうすへし
4 第八に観念をもつはらとすへし
5 第九に善知識にあふへし
6 第十に臨終に悪念をととむへし
7 第十一に法花経ををこなふへし
8 第十二に阿弥陀仏をたのみたてまつるへし
9 されはかみをそりおとすものもありまたなかく
10 はやさんとするものもありかみへかきあくるものも

上53オ

1 ありしもへなてつくるものもありみなみなこのみこのみ
2 なりされはめいくむは松をあいし楽天は竹を友
3 としねいわうはふえを吹楚王は琴をひく人

4　のこころはひとつにあらさるかゆへに十二のもんを
5　たてて申なりいつれにてもあれ御こころのひかん
6　かたをつとめ給ははみな仏道(だう)にいたるへきものな
7　れはいそきいそきつとめをこなひて仏に成たまふへし

宝物集下巻

下1オ

1　宝物集下巻
2　第一に道心をおこし出家とんせいして仏に成へしと
3　申はこれたしかの修行なり万法は心のなすところ
4　にてさらに別に法なし発心をおこして浄土をも
5　とむへき也永観法師は人木石にあらすこのめはを
6　のつから発心すとそをしへける道心をおこさんもの
7　はよき友にしたしむへき也栴檀の林に入人は衣を
8　のつからかうはしく麻の中の蓬はためさるになをき
9　なり海にうかふ舟は万里をすき松によるかつらは
10　千尺のこすゑにのほるされはせうれけせかいの鳥

下1ウ

1　は妙法をさえつり此ゆへに道心あらん人にちかつきて
2　仏道をねかふへし法花経には不親近諸外道梵
3　志とのへ給へりこの心はかりそめにもあしき友に
4　ちかつく事なかれよき人にしたしめとなり心は第一
5　のあたなり心は心をゆるすへからす煩悩は家
6　の犬うてとも門をさらすこころは山のかせきなつ
7　けともしたかはす心はあらき馬のことししつ
8　めて道心をおこすへし一念菩提心をおこせは百千
9　万の塔をつくるにすくれたりと申ぬれは一念のくとく
10　さへ無量なりいはんやなかく道心をおこしてひ

下2オ

1　とへに仏道をもとめんにをゐてをやされは釈
2　迦如来華厳経の中におほくのたとへをとりて
3　ほたいしんの功徳をとき給へりたとへは善見薬王は
4　一切のやまひをととむるかことく菩提心も一切の煩悩の
5　病をととむたとへは馬牛羊の乳の中へししのちを入
6　れは馬牛羊の乳はきえす又一切のたからの中に如
7　意珠すくれたり一切の功徳の中に菩提しんのくとく
8　須とくすくれたるとのへ給へり又秘密蔵経には
9　はしめの菩提心より重重の十悪をのそくいはんや
10　第二第三第四にをいてをやされは善財童子の

下2ウ

1　菩提心をおこし給ひしをは弥勒大士は獅子
2　の座よりをりさせ給ひて光明をはなちておか

3　み給へるなりこれ童子のたつときにあらす菩提
4　心のたつとき也しかりといへともとめるものはたの
5　しみにふけりて出家の心さしなしたれも善
6　には物うく悪にはすすみやすきものなり然れ
7　とも釈迦如来は摩伽陀国の御あるし浄飯大
8　王の皇子にておはしませは十善の位に
9　そなはり給ひて栄花にほこり大臣百官に
10　いねうせられ給ふへきに生死無常のはか

下3オ

1　なき事をなけき給ひて王位をすて給ふのみならすお
2　やにも妻にも別れ給ひて十二年の間難行苦行
3　の功つもりて十二月八日の暁明星を見給ひて諸
4　法実相のことはりをさとり給ひてよりのち三界の衆生
5　の導師となり給へるなりされは大国のあるしと
6　成給ひたらんは夢まほろしの間のたのしみ成へし
7　三世了脱の仏と成給ひてなかく生死のくるしみを
8　はなれけらくふたいの地に座し給ふこそ有かたけれ
9　ここをもつて濁世の我等を思ふに何に心をととむへ
10　きはやく物うき世路のいとなみをふりすてて後生

下3ウ

1　善処のいとなみをなし給ふへき也人の命のあだなる
2　事はあしたの露のことくよひのいなつまにたり
3　をくれさきたつ間こそあれつゐにはたれか残りとと
4　まるへきされは女人なれ共小野小町は生死のこと
5　はりをしりてかくそよめる
6　あるはなくなきはかすそふ世中にあはれいつれの日まて
　なけかむ
7　又かものなりすけかよめる
8　たれとてもとまりはつへき身ならねとまづはさきたつ人
　そかなしき
9　藤原のちかもりかよめる
10　けふまてはよそにのみきくはかなさのいつ身の上になら
　んとすらん

下4オ

1　露の命のきえぬまにあるひは逆修の善をまうけあ
2　るひは目のまへの功徳をつくるへき也一期の夢さ
3　めて後の追善の物をは七分か一つをうくるとそ申
4　ぬる仏をしへてのたまはくたとへは王宮に池有此

5 池に色香たへなる蓮さけりある人此はちすをぬ
6 すまんと思ふもし人とかめはをしのなくまねをよく
7 すれはをしそと心えてとかめしと思ひてぬすむ
8 ほとに花はかりに心入て人のくるをはしらすしてとらへ
9 られて後にをしのなくまねをしけれはかひもなく
10 ていましめられけり其やうに露の身のきえてのち

下4ウ

1 功徳をなすはとらへられて後をしの鳴まねをした
2 るかことしされはかしこき人は十善の位をたにもふ
3 りすてて冥途ををそれ給ふためしこれおほし天竺
4 の国王出家し給ひて後おほきにたのしみ給ふ
5 を大臣あやしみてとひたてまつりけれは十善の
6 位をたもちし時は一切についてそのおそれありき
7 出家して後にをそるる事もなくたのしきよしをそ
8 のたまひけるされはかやうの人のおほき事はかそへ
9 つくすにをよはす仏も我等出家得阿耨多羅とそ
10 とそおほせられける此心はわれとしのわかかりし

下5オ

1 時出家して仏になる事をえたりとのたまへるなり
2 されはわかくて出家めてたかるへき也むかし七度げん
3 ぞくしたりしものの罪業をもきかゆへに大地獄にお
4 ちし時罪人かいはく我すてに七度げんぞくしたる
5 つみによりて地獄におつさて七たひ出家したりし
6 功徳はいかにといひけれは閻魔王たなこころをあは
7 せて礼し給ひて悪道をまぬかれけりいはんや
8 道心をおこして出家したる功徳これにておもひ
9 やり給ふへきなりはやく道心をおこして仏に
10 なり給ふへきなり

下5ウ

1 第二にふかく三宝を信して仏になるへしと申は諸
2 仏はみな三宝を信して道をえ給へるゆへ也三ほ
3 うと申は仏法僧の三つなり仏にたのみをかけ
4 たてまつりて成仏すへきむねををろをろ申へし
5 法花経には今此三界皆是我有其中衆生悉是
6 吾子とのへ給ふなり此文の心は三界の衆生はみ
7 なわか子なりととき給へは父のことくにおもひたて

8　まつりて一切衆生たのみかけたてまつらはうたかひな
9　く仏に成たまふへきなり又譬喩経をとき給ひし
10　時は七日の間しやうれむ慈悲の御まなこよりく

下6オ

1　れなゐの涙をなかし給ひて末代の衆生の道心なき
2　事をそかなしみ給ひし今生のおやはたた一世のち
3　きりはかり也おやは子を思ひ子はおやを思ふといへと
4　もたた夢まほろしの間の事なりさらに後の
5　世に二たひみゆる事なしされは大聖世尊に父の
6　ことにたのみをかけたてまつらはかならはのちの世を
7　すくひ給ふおやをもつへきものなりそうきのくきや
8　うも五百の大願も我等衆生のためなりしかるに今
9　見仏聞法のけちえんをするもたれかちからそや
10　ひとへに大恩教主釈迦如来の御ひくはんなり此御

下6ウ

1　をしへにあつからすはみやうよりみやうに入といひ
2　てくらきよりくらき道にまとひて六道にちんりん
3　すへし此心を泉式部かよめる
4　くらきよりくらき道にや入なましはるにてらせ山のはの
　　月
5　はやく随喜して往生極楽をいのりて仏に成給ふへし
6　薬師如来は一切衆生の病をととめて八ほさつをし
7　て極楽へをくらんとちかひ給ふなり我等貪嗔痴の
8　三毒の病をもきかゆへに出離の心なしいま如来の
9　御ひくはんにあひたてまつりてすみやかに生死の大
10　海をわたり給へきなり人死苦のきはまる時はかなら

下7オ

1　すたんまつまのくるしみ身をせむるかゆへに臨終正
2　念ならすされは薬師如来をたのみたてまつれは
3　貪嗔痴の業病及もろもろの病をのそき乃
4　至八菩薩をせうすとのたまへは又大慈大悲観
5　世音菩薩は身を三十三にへんして十方の衆生
6　をみちひきかたちを六しゆにわけたまひて六
7　道のくんるいをすくひ給ふ観音の御ひくはんに
8　あつからすはいかてまつたく蓮台に生るる事を
9　えん現世の利生も人みなしれりされは中中
10　申によらす又地蔵菩薩はわれら衆生ふかくた

下7ウ

1 のみたてまつるへき仏なりそのゆへは釈迦如来忉
2 利天にましまして十方の諸仏菩薩あつまり給
3 ひし中に地蔵菩薩につけてのたまはく未来悪
4 世の衆生をは汝に付属す一日一夜なりとも
5 悪道へおとし給ふ事なかれとおほせられしなり
6 されは冥途の事にをきてはよろつ地蔵菩薩に
7 いのりたてまつりて今世後世ういんたうのりう
8 やうをあふきたまふへきなりあるいは炎魔王と成て
9 中有の罪人をやとしあるひは十王と成て七日
10 ことの罪人をすくひ給ふ自業自得果のつみまぬ

下8オ

1 まぬかれかたけれはかならす衆生にかはりて苦患を
2 うけ給ふしかのみならす毎日しんてんことにもろもろの
3 地獄入給ひて罪人をとふらひ給ひぬ造作五逆罪
4 常念地蔵尊遊戯諸地獄決定代受苦この経文の心
5 は五逆罪をつくりたるものなりともつねに地蔵菩
6 薩を念せはもろもろの地獄に入て衆生にか
7 はりて苦をうけん事決定なりとの給ふなりさ
8 れば現世の御利益もいとかなしくそおほゆる西
9 坂本に観音院といふところにおひたる女あり
10 き五寸はかりなる地蔵をもとめておこけといふ

下8ウ

1 物に入たてまつりてくふ物のさはをまいらせて年
2 をへてけり此女田を二反もちたりけるを年ころ
3 子なりけるおとこにあつらへてつくらせけるに
4 いかなる事かありけん六月までつくらさりけれは
5 子をうらみて年比もちまいらせたる地蔵にむかひ
6 てあはれ人にておはしまさんには此田はつくりて
7 たひてましとてねたりける夜の夢に汝か田の
8 つくられさる事をかなしむ間我つくりてあた
9 へんとのたまひてわかやかなる僧の来り給へる
10 とみて夜の明かたにめさめけれは道をとをるも

下9オ

1 のの声にてきのふまてつくられさりし田を夜のまには
2 何もののつくりたるらんといふをきき て夢におも
3 ひあはせてわか田のもとに行て見れは此田みな

4 うへられたりふしきにおもひてもし地蔵の御は
5 からひにてもやあるらんといそきかへりて見れは
6 御足手に土うちつきておはしましける又二条朱
7 雀辺に紙すきの有けるか其あたりのものとも
8 冷泉河辺のゑそてらの地蔵かうをそをこなひ
9 けるに紙すきさして心さしはなかりけれともなく
10 さみかてらにましはりて一年に三度つつ此かうを

下9ウ

1 つとめけりある年この紙漉やまひ大事にて命
2 終おにともにとらへられて炎魔王宮に行ぬす
3 てに罪の軽重をたたさるる所にわかやかなる僧
4 一人来り給ひてあなかしこにこひうけて娑婆へ
5 かへるへき道をねんころにをしへられけりあまり
6 にうれしくていかなる人にておはしましけるそと
7 とひけれは冷泉河原の辻にあり一年に一度われ
8 を供養し給ひしなりとてうせ給ひぬ紙すきよみ
9 かへりて涙をなかして此事をかたりていよいよこの
10 地蔵をきゑしたてまつり又東山にありけるをん

下10オ

1 なも年久しく地蔵を念したてまつりしゆへに
2 死したるおやをもちわつらひけるを行脚の僧
3 にけんし給ひてかの死人を山へをくりけうやうし
4 給ひけり山をくりの地蔵とて六波羅にましま
5 すなりいはんやかくれての利生後の世の御たす
6 けおもひやり給ひていつれの人もみな地蔵菩薩
7 をたのみたてまつるへし也されは三井寺のな
8 いくうちこうは炎天に重病をうけて悩乱す
9 る事前後をしらすしかるに陰陽士清明
10 をよひていのらせけれともしるしなし清明

下10ウ

1 かいはくちこうは定業かきりの有人なれはいかに
2 いのりたてまつるともしるし有へからすたたし
3 御弟子の中に師匠の重恩をしり給ひてかの
4 御命にかはり給ふへき人あらはまつりかへんと
5 いふちこうは病のしのびがたきに心なき事
6 なれはわか命にかはれとはいはされとも弟子と
7 もの中を見まいらせけれとも我かはらんといふ物

8　なしここに性空阿闍梨といふ弟子師弟は他生
9　の契あさからすされは弘法大師は師は三世の
10　ちきりおやは一世のむつひとおほせられし也

下11オ

1　清明かいふことく師匠の命にかはりて我かの病
2　をうけつゐに冥途にをもむくへしいそきま
3　つりかへよといふを聞てちこう涙をなかしていはく
4　わか命にかはるへき心さしはうれしけれとも弟子
5　をころしてさきたてん事は順儀にはつれぬへし
6　たたまつりかゆへからすといひけれは性空いひつる
7　ことはなれはふつとおもひきりたりけるを母のあり
8　けるか聞て八十にあまりたるははをふりすてて
9　さきたたん事いかにとせいしけれは性空かいはく
10　流転三界中恩愛不能断奇恩入無為真実

下11ウ

1　報恩者といふ要文をひけり此心は三界のうち
2　にるてんすれはをんあいたゆる事なし恩をす
3　ててむゐに入もの真実のおんを報する物なりと
4　仏のとき給へるなりされはおやの恩は三界を
5　はなれさるおんあいなり師匠の恩は三界をはなれ
6　て無為に入真実の恩なり我すてに師匠の命に
7　かはりなは此くりきによりて母もかならす無為
8　の都に入給ふへし心やすくおもひたまふへし
9　といひてたちまちに師匠の命にかはりかの業
10　病をうけ五体やすからすなうらんす性空

下12オ

1　やまひあまりにしのひかたけれは本尊の絵像
2　の不動にむかひたてまつりて我師匠の命に
3　かはりてこの業病をうけたりねかはくは明王臨終
4　正念にしてはやくころし給へといひて礼拝しけ
5　れは絵像の不動の御まなこよりくれなゐの
6　涙をなかし給ひて汝は師匠の命にかはる我は
7　汝か身にかはるとおほせられけれは性空かや
8　まひたちまちになをりて師匠も弟子も命た
9　すかりけりされは十方三世の諸仏は同体分身
10　にて渡り給へはいつれの御ひぐはんもみなかくのこと

下12ウ

1 しされはいつれの仏にてもましませたのみたてま
2 つりて仏になり給ふへし又もろもろの経論真
3 言のくとくをかたはしつつ申へしむかしくばくばら
4 もんといふ人あり一日に千のいき物をころす
5 年つもりぬれはころす所の物かすをしらす今
6 生の縁つきて大地獄におちてくけんをうくる
7 にすいくたらにのひとつの文字風にふかれてか
8 はねにかかりけるくとくによりて地獄のなかへ俄
9 にやふれてたちまちに清涼の池となれり
10 いはんや心をつくして陀羅尼をよみかきたらん

下13オ

1 功徳は一切経を百万返よみたるにおなしといへり
2 又尊勝陀羅尼のくとく後の世の事は申にをよ
3 はす現世もめてたき事なり九条の右大臣もろ
4 すけは百鬼夜行にあひ給ひたりけるに尊
5 勝陀羅尼をみて給ひて鬼の難をまぬかれにき
6 又西三條の大将つねゆきは神泉苑にてかやうの
7 事ありけるにも此陀羅尼をきぬのゑりに
8 ぬひくくみてもち給ひしゆへにたすかり給ひに
9 きされは冥途の道にても阿防羅刹いかてか此
10 くとくをむなしくなさんやよくよくしんすへき

下13ウ

1 ものなり又ふかく僧をくやうすへしと申は仏羅
2 漢なくは持戒の比丘それなくは破戒の比丘も
3 しかしらをそり衣をきたらん法師をくやう
4 すへし持戒破戒をきらふへからす大国に玉を
5 ふくむ鳥あり鳥はたからともしらされとも
6 玉はたからなりされは僧は破戒なれともくや
7 うのくとくはたからとなる也ここをもつて羅什
8 三蔵ははちはまんゑのことし法は蓮花のことし
9 との給へりはちは衣のことくに身にあまりぬれ
10 とも法は蓮花の土によこれさるかことし又弘法

下14オ

1 大師は功徳は大地のことしをのれかために諸人に
2 ほとこせとのたまへりかりそめにも出家の体をえ
3 たらむものをあしくいふへからすゆいなといつ

4 しものをろかにして僧をあなつりしかは九十一
5 劫虫にむまれて苦をうく又ある人わかかりし時
6 たはふれに老僧をわろくいひしかは五百生犬に
7 むまれてされはいかにもあれ法師を供養して往
8 生極楽をいのり給ふへきなり
9 第三に戒をたもちて仏になるへしと申事は
10 如来の禁戒に入ぬれは八万四千の悪業煩悩

下14ウ

1 のいくさのせはせめ来るといへともまつたくをかさるる
2 事なし梵網経には戒をたもつ人は浄土人天の
3 むくひをうくととき成実論には戒をたもてる
4 ものはもろもろの善根を成就すと教たり知度
5 論にはもし人大善根をもとめんとおもはは
6 さに戒をたもつへしといふ又十分律に戒をた
7 もつ人をは二十五のぜんじんゐねうすといへり
8 此ゆへによくたもつを十善といひあしくやふる
9 を十悪と申なり戒のさまひろし菩薩戒より
10 沙弥戒にいたるまて八万の律義三千の威義

下15オ

1 なととてさまさまおほけれとも仏めうかい大わうのた
2 めには十戒ををしへたいゐ長者がためには五戒
3 をさつけ給ふこのゆへにまつ五戒の有さまを申
4 へし五戒とは殺生偸盗邪淫妄語飲酒此五を
5 申也一には不殺生と申は物の命をたたぬ事なり
6 せつのゐんせつのえんせつのほうせつのこうと
7 いふはみつからころすのみにあらす人のころすに
8 もともなはす人にをしへてもころさせすされは
9 持戒の比丘さとにいてて乞食するにある玉つく
10 りのもとへ行ぬかの玉つくり家のうちに入たる

下15ウ

1 ひまに鵜といふ鳥来つて玉をのみぬ玉つくりき
2 たりてここにある玉うせたり乞食の沙門のぬ
3 すめるそとてとらへてうちせめけれとも殺生
4 戒をやふらしとて鳥ののみたるとはいはすうち
5 せめらるるにこのかなつちぬけてそはなる鳥
6 にあたりてすなはち死にけりしはらくあり
7 て沙門のいはくこの鳥はいきかへるましきかとと

8 へははや死にはてたりといひける時さらはこの
9 鳥のはらをあけて見よ玉あるへしといふ其
10 とき玉つくり鳥のはらをあけてみれは玉あ

下16オ

1 りけり玉つくり此僧にむかひてなにとてやか
2 て此鳥のみたるよしをはのたまはてゆへなく
3 せめられ給ふそといひけれは僧のいはくわれ殺
4 生戒をたもつゆへにいはさるなりといひけれは
5 その時この玉つくり僧を礼拝してたつとみけり
6 此事を天台にときたまへり昔国王のましまし
7 るかきやうこうたつとき羅漢をきゑせんかため
8 にむかへ給ふ折ふし碁をうちてまち給ふと
9 ころに羅漢の来り給へるよしを奏しける
10 時うつ碁にきるへきところの有けるをけうに

下16ウ

1 入てたたきれとのたまひけるを羅漢の事と
2 心えて官人すなはち羅漢のくひをきりて
3 国王碁をうちはて給て後羅漢こなたへよひた
4 てまつれとおほせられける時はやくきれとの
5 たまひつる程にきりぬと申国王此事をかなし
6 みあさましくおそろしくおほして仏のもとへ
7 まいりてさんけし給へは仏のたまはくむかし国
8 王はかへるにて田の中にましまし時羅漢
9 のうふにて田をつくる程にすきといふものを
10 もちて心ならすかへるのくひをうちきりけり農夫

下17オ

1 くひかなしめともかひなくしてやみぬされはいまその
2 業をつくさんかために心ならすころさるるなりと
3 の給へりあやまちさへかくのことしいはんや心を
4 おこしてころさんむくひにをいてをやむしし
5 やうしより諸仏のりやくにもれて六趣に輪廻
6 してかなしむは物の命をころして殺生戒をたも
7 たさりしゆへなりとて仏はとき給へるかへすかへす物のい
8 のちをころすへからす二に不偸盗と申は草の
9 一すちも針の一本もぬしにしらせてとるへからすい
10 はんや其外のものをやむかし憍梵波提手すさ

下17ウ

1 みに道のほとりにおちたるあるをとりたりしゆへに
2 五百生の間うへのすかたと成にきされは仏の物をぬ
3 すみたるものは生 生世世に手なきものにむまるる
4 なりくろかねは針にてはて人はぬすみてはつる
5 なり今生後生あさましき事なりされはかし
6 こき人は人のあたふる物をさへことによりてと
7 らすことにぬしのおしむ物はゆめゆめとるへから
8 す又六賊のぬすみといふことあり一にはよろす
9 の物をみてほしと思ふ二にはこゑを聞物人の
10 かたりつたへたる物をほしと思ふ三にはもののかをか

下18オ

1 きてほしと思ふ四には舌にもののあちはひをしり
2 てほしと思ふ五には身にふるる物にあいちやくをな
3 してほしと思ふ六には心に物をあんして思ひ出して
4 ほしと思ふこれみな輪廻の業なりよくよくつつしみ
5 て生死をはなれ給ふへき也三には不邪淫と申は
6 妻あるものをおつとにせすおつとある物をつま
7 にすへからすといましめられたりされともこれは
8 ひとりをはゆるされたりけれは事もをろそか
9 なり不淫とて女のかたへ目をも見やらされと仏
10 はせいせられたり女人は煩悩のみなもとなり

下18ウ

1 一たひおかしつれは五百生の間かれにしたかひて
2 六趣に輪廻す毒蛇を見るとも女人を見へからす
3 といへりされは一見於女人永結三途業何況於一犯
4 定堕無間獄ととき給へりこの心は一たひ女人を
5 見はなかく三途のこうをむすひいはんや一たひお
6 かしぬれは無間におつる事決定なりとのへたま
7 へるなりむかし一人の羅漢木の枝に烏のゐたる
8 をみてうちわらひてとをりけれは弟子あや
9 しみてゆへをとふ羅漢のいはく五百世のあなたに
10 うはそくにて有し時淫をおかして一人の子をまう

下19オ

1 けてむつになる時修行のために出んとしけれは
2 我をはいかになれとおもひて行給ふそといひて
3 あしにとりつきてをめきさけひしかはそのたひ

4 はととまりきそのゆへに出離の方便なくして五百
5 世の間六趣にりんゑしてこのたひこそやうやう
6 羅漢のくわをえたれむかしの六子すなはち此から
7 すなりとそのたまひけるされはいんよくは第一
8 の仏道のさまたけ也涅盤経に女人地獄使能
9 断仏種子外面似菩薩内心如夜叉とのへ給へり
10 この心は女人は地獄のつかひにてよく仏のたね

下19ウ

1 をたつかたちはほさつにたりといへとも心のうち
2 は鬼のことしさるにや阿育大王のきさきはまま
3 子のくなら太子をおもひかけ給ひたりけるをきき
4 給はさりけれは両のまなこをくしり給ひけり
5 しかのみならすとしころのおつとをままおとこに
6 ころさするをんな漢家本朝にかすをしらす又
7 畜生にとつく物もありこれみな淫慾のいたす
8 ところ也よくよくつつしみ給ふへししかれとも
9 在家のものには一人をはゆるし給へり懐妊の
10 あひた月水の時をいましめられたり男女の契

下20オ

1 りよしとてもなにのゑきかあるへきすみやかに淫
2 慾をはなれて無上菩薩の心をおこして仏道を
3 ねかひ給ふへきなり四に不飲酒と申は酒をのむ
4 ましき事也天竺に長者あり一つの蔵の中
5 に酒をつくれり壺おほきにしてすめる事い
6 つみのことし長者の妻くらにいりて酒のかめをみるに
7 わかき女のかたちよきありいそきかへりて長者に
8 むかひて汝をたのみて偕老同穴のちきりふ
9 かしうらみなかりつるにかめの中に女ををきて
10 われに見せつるはとうらみけれは長者ふし

下20ウ

1 きにおもひていそき行て見れはおとなしやか
2 なるおとこありけれは長者かへりて女にいはく
3 われをすかしやりてまおとこにころさせんするに
4 こそとて年ころのめをうらみて離別しけれ
5 は一人の羅漢此事をさとりて酒のかめをみ
6 れは男も女もなしされは明くれさけをのみのむ
7 程に酔のあまりにほんしやうをうしなひ我

8 かけの酒にうつりたるとはしらすしてかやうにほれ
9 たるうらみ事をいひけるあひた羅漢此酒かめを
10 取出してうちわりて長者夫婦に見せられける

下21オ

1 時ふたりかうらみ事やみける又迦葉仏のとき一
2 人のうはそく酒に酔て本心をうしなふゆへに人
3 のめをおかしけつく庭鳥をぬすみころしつぬしはら
4 たちてかこちけれはさなきよしを論しけりかや
5 うに酒は本性をうしなはする物也されは酒は五
6 戒をやふるかゆへに譬喩経をとき給へり仏
7 説身口意三業之悪行唯酒為根本不飲閉悪
8 道この心は身と口と心とを三業よりおこるとつみと
9 かはたた酒をもつて根本とするかゆへにのますして
10 悪道をとちよととき給へる又梵網経に酒を

下21ウ

1 とりて人にあたへんものは五百世の間手なきものに
2 むまるるとのたまへりいはんやみつからのまんにをひ
3 てをやよくよくつつしみ仏に成給ふへし五には
4 不妄語戒と申てそらことをすへからさるなり
5 口のとかは身をはみ舌のとかはつるきとなつて
6 命をきるといふはそら事をいましめたるなり
7 されは地獄にして罪人にむかひて獄卒の
8 いはく妄語の火は大海もやきつへしいはんや
9 妄語の人をやかんには草ふかきかれ野に火をつ
10 けたらんかことし地獄のたきは妄語なりされは

下22オ

1 妄語のつみにおちたるものとをきよの事はかすを
2 しらすちかくせうこをあらはせるは紫式部そらこと
3 をもつて源氏物語をつくりしゆへに地獄に
4 おちてくけんをうくはやく源氏をやきすてて
5 一日経をかきとふらふへしと人の夢に見えける
6 とて歌よみとものあつまりてとふらひしなりたと
7 ひかり人の鹿をもとめうしなひてここをしかや
8 とをりつるといはんにかれをころさしかためにしり
9 なからしらすといはんをは妄語なれとも仏も
10 ゆるし給ぬへしをよそこれにあひにたらん事は

下22ウ

1 くるしからす此外の妄語はけし程の妄語の事なり
2 ともしゆみせん程の苦をうへし也されは恵心僧
3 都は年の始にかならす御門の行幸を見給ひ
4 けるを御妹の安養の尼と申人のあやしみて
5 きみは無極の道心ある人なり何ゆへに年
6 ことにおほやけの行幸をは見給ふそとのたまひけ
7 れはむかしの十界のちからにていま十善の位にむま
8 れ給ひたる事のなつかしけれは見たてまつるなり
9 されは大臣公卿よりはしめていやしきからかさも
10 ちにいたるまて前世の戒力によりて上下のあり

下23オ

1 さまをみて過去遠遠のるてんをくはんするな
2 りとそのたまひける今世後世めてたき事は
3 たた五戒をたもつに過たる事なしたとへはもろもろ
4 の悪念煩悩は行者のためにかたき也かのかたき
5 をうたんとおもはは善心のせいをそろへて一足
6 もしりそく事なかれその時は悪念のまうせいを
7 いおとされてにけかくれぬしかりといへともややもす
8 れはすきをみて煩悩のやから謀叛をおこす
9 おこすといへとも善心のはかり事かしこけれはつゐ
10 に妄念のかたきほろひうせて無為の都のあるしと

下23ウ

1 なりてなかくたのしみにほこりて二たひ生死をう
2 くる事なしいかにも如来の禁戒をたもちて後
3 の世をねかふへし一生はひとましろきの程なりかへ
4 すかへすいるかせに思ふへからすかやうの事をふかく
5 しんするをちしやとは申なり
6 第四にもろもろの行幸をつみて仏に成へしと
7 申は諸仏はみな六波羅蜜を行して正覚なり給
8 へり六波羅蜜と申は一には檀波羅蜜布施の事
9 也二には尸羅波羅蜜かいをたもつ事也三には羼
10 提波羅蜜ものをこらへてあたかたきのとかをも

下24オ

1 思ひなをして人のいたむへき事をわか身におもひ
2 しるへきなり四に毘梨耶波羅蜜しやうしんをかた
3 くするなり五には禅波羅蜜心をしつかにもちて

4 仏道をもとむへきなり六には般若波羅蜜ちゑ
5 をもつてまよひの衆生をすすめて極楽へみちひ
6 くへし此六をあはせて六度万行と申なりされ
7 はしやうしやり仙人はもととりに鳥の巣をくひて
8 子をうむにかい子のすたつまてはたらかす悉多太子
9 はたんとく山に入迦葉尊者は鶏足山にこもり
10 てそおこなひ給ひけりしかのみならす大峯葛

下24ウ

1 木をとをり堂をたて仏をつくり経をよみ花を
2 つみ水をむすふ人みな仏道なるへきをこない也
3 かもふにんはあゆむ足の下ことに蓮花のひらけ
4 るなりむかし仏に花をたてまつりしゆへなりむ
5 かし堂のくつれたりし所に土をぬりてつくろひ
6 たりし人九十一劫悪道をまぬかれてかひら長
7 者の子にむまれき仏のはけたりしに薄をを
8 したりしゆへに未来にかならす仏になりて
9 光明如来といはるへしとそ仏さつけ給へり
10 天竺震旦吾朝に心ある人のたれか仏道を修

下25オ

1 行せさる事のある阿育大王は八万四千の塔を
2 たて梁の武帝は二千九百の堂をたて行基菩
3 薩は四十九院をたて給へりいつれのかたにても
4 あれ心のひかんかたをつとめをこなひて仏に
5 なり給ふへきなり
6 第五に浄土に往生せんといふ願をおこして仏に
7 なるへしと申はもろもろの仏菩薩は衆生をあは
8 れみ給ひてをのをの願をたて給ふその心おほく
9 の経に見えたり釈迦如来は五百の願薬師如来
10 は十二の願阿弥陀は四十八願普賢菩薩は十願

下25ウ

1 をのをのこれら衆生をあはれみてすくはんと思召
2 てちかひたまふ御心さしなりされは心あらん人は
3 願をおこし仏道を成就して有縁の衆生をみ
4 ちひき無縁の罪人をとふらふへき也大荘厳論には
5 行業は牛の車のことし願は牛かひのことし行の牛
6 の車あれ共願の牛かひなけれは庭をめくる事なし
7 はやく行業をつみて往生の願をおこして浄

8　土にまうて一切衆生をみちひき給ふへきなりこ
9　こをもつて普賢菩薩は願我臨欲命終時
10　尽除一切諸障碍面見被仏阿弥陀即得往生安楽

下26オ

1　国といへりこの心はねかはくはわれ臨終の時にの
2　そまはことことく一切の障碍をのそひて阿弥
3　陀如来を見たてまつりてすなはち安楽国へ
4　往生する事をえさせしめ給へとなり又文殊は願
5　我命終時尽除障碍面見阿弥陀往生安楽
6　国とこれもまへにおなし心也又いはく誓願不思
7　議西方無量寿極重罪衆生往生安楽国とい
8　へりこの心は阿弥陀のせいくはんほとふしきなる
9　はなし極重の衆生なれとも極楽へ往生すとい
10　へる也されは極重の悪人さへ弥陀のせいくはん

下26ウ

1　にはもれすいはんや心あらむ人にをいてをや
2　又天竺の波斯のく王のむすめせうまんふ人は
3　かたちみにくく髪ちちみ色くろくして人に
4　見ゆへきかたちにあらす然れとも恩愛すて
5　かたくてひとつのろうにかくしをき給へるさるほと
6　に仏をむかへたてまつりて説法をさせまいらせへ
7　きよしおほせられけれははしのく王の都のも
8　のともみなみなちやうもんすへき事をいとなみし
9　に時にかのせうまん夫人は人のまへには出ましき
10　人にてましませは此事をかなしみて仏の法をきか

下27オ

1　むといふ願をおこし給ひたりけれは仏かのろうのう
2　ちへ光をはなち給へり此光にあたりてせうまん
3　ふにんのかたち檀金になりちちめる髪もたち
4　まちにひすいのことくに見えけれは大王よろ
5　こびてそのちいよいよ説法を聴聞せられけり
6　これも願力のゆへによりてせうまんふにんのかた
7　ちたんこんに成給ひきせんしやく比丘はあまりに
8　ものはちをしてむまるるたひことにはたかにて
9　むまれしといふ願をたてけれはうたかひなく物を
10　きて生まれきされは少納言公経は受領して河内の

下27ウ

1 国へ下りけるに一宇の堂を建立せんと思ひて
2 見ありきけれはふるき堂あり仏壇のうちを
3 見れはよくしたためたる文あり取てひらきて
4 見れはその状にいはく沙門公経うやまつて申一
5 堂興隆の願ありといへとも力なくして供養を
6 とけすねかはくは来世に当国の国司にむまれ
7 て此くやうをとげしめ給へと書きたり此沙門の
8 名のりの文字を見れはわかなのりの
9 文字とおなし文字なり其時むかしの事をさと
10 りて供養をとけたりこれも願力のゆへなり又

下28オ

1 むかし微妙の尼といふものあり宿命通をゑてむかし
2 の事をかたりていはくわれむかし一人のまま子をにくみ
3 てひそかにかしらにはりをさしつ母あやしみて我
4 をうたかひしかはおほくのちかことをたてたりきその
5 ちか事ひとつもたかふ事なく生生世世にをひた
6 りし也今羅漢の果をえたりといへともかしらよ
7 り足のうらまて針をとをすやうなるくけんあり
8 とそかたりける何事も一念おこす所の願は生生
9 世世にはたすなりされは往生極楽をねがはむ
10 に阿弥陀如来紫雲にのり西方より来迎し

下28ウ

1 給はん事うたかひあるへからすとをきたとへは申に
2 をよはすちかくは東大寺の得業といつし人大般
3 若供養すへき願をはたさすしてにはかに命お
4 はりけるか閻魔王宮よりかへされて供粮をとけ
5 てほとなく往生せられけり其時閻魔王のさつ
6 け給ひし経文あり般若第一教此経結縁者
7 雖有重業障必当得解脱この心は般若は第
8 一のをしへなりこの経文をけちえんするものは
9 業障をもしといへともかならす解脱をうる
10 といへり其比閻魔王誦せられたる経文な

下29オ

1 りとてあまねく諸人申あへり
2 第六に業障をさんけして仏になるへしと申は
3 人界に生をうくるたのしみはさんけの法にあひし

4 ゆへなり道綽禅師の安楽集に経文を引て
5 のたまはく人の一日一夜をふるあひたには八億四
6 千の思ひありいはんや念念におこすところ思ひ
7 の数無量無辺なりこれみな三途の業となる
8 といへりいはんや一生涯の業をやいはんや生生
9 世世の業をや此心をは永観法師か七だんのし
10 きにくはしくしるせり心地観経には在家のもの

下29ウ

1 は欲煩悩のいんをまねく然といへともさんけすれはあ
2 らふる煩悩みなめつして菩提の花ひらくさんけすれは
3 大ゑんきやうをみるさむけされはほうしよにい
4 たる百丈の石なれども舟筏につみぬれは大海に
5 しつむ事なし罪は百丈の石のことしさんけは
6 舟筏のことしはやくもろもろの業障をさん
7 けして生死の苦海を渡るへきなりされは普
8 賢菩薩は有相無相せつりこし此三のさんけを
9 をしへたまへりよくよく心得しるへしまつ色相の
10 さんけといふは無始生死よりつくりし罪をはち

下30オ

1 くやみてほつろていきうしてあるひは本尊に
2 むかひあるは賢聖にむかひてさんける也大経に
3 いはくもし人罪をつくりてかくせはすこしきつみな
4 りともいよいよ増長すといへりしかれともことはを
5 さんけして心をさんけせさるはいたつら事也心のつ
6 みはさんけすれ共さんけせられす一心にさんけ
7 して業障をほろほし給ふへしこれをまこと
8 のさんけといふなり次に無相のさんけといふは一
9 切の業障はみな妄相なり生すれ共有の体と
10 いふものなしこれをりのさんけと申也たとへは

下30ウ

1 千年のやみはくらけれともさんげの一寸のしそ
2 くをいれぬれは千年のやみははれぬへしたとへ
3 は業障のたききは千里につみたりといふとも
4 けしはかりのさんけの火をつけぬれはことことく
5 やけうせぬたとへは悪業の雲霧はあつけれ共
6 さんけの風吹は悪業のくもきりみなはれて
7 法性の空あきらかなりたとへは煩悩の露霜

8　はふかけれともさんけの恵日出ぬれはすなはち
9　きえうせぬ此心を普賢経にとき給へり一切業障
10　海皆従妄想生　若欲懺悔者端坐思実相衆罪

下31オ

1　如霜露恵日能消除是故応至心懺悔六情根この
2　を歌によめる覚樹法師
3　命をも罪をも露にたとへけりきえはともにやきえんとす
　らん
4　前斎宮大輔
5　心よりむすひをきける霜なれは思ひとく日に残らさり鳧
6　懺悔と申は生生世世につくるつみをはち悪業煩悩に
7　をちをそるるをいふなり一つのせうこを申へし天
8　竺に商人ありもろもろのたからをもとめんかために
9　五百人の友をくして風にまかせて舟を出し大海
10　を渡る程に色あかくかしらの髪あかくして口より

下31ウ

1　ほのほを出し目より光をはなちたるもの舟のはた
2　をとらへていはく汝ら我よりおそろしきもの
3　見たりやといふ五百人のものをのをの心をま
4　とはしきもをうしなひて舟のそこへころひふ
5　してありけるに此中に五戒をたもちける俗一
6　人ありけるか物をいはすは中中あしかりなんと心え
7　て汝よりおそろしきものありといへははけ物の
8　いはくいかなる物そきかまほしといふ時にこの俗汝
9　ら百千万あつめたるよりなをおそろしき阿防羅
10　刹の中へ我をつれてゆかんとする悪業煩悩の心

下32オ

1　は汝よりもおそろしきにあらすやといひけれはこの
2　ことはを聞てかのはけ物海のそこへいりぬすみや
3　かに此俗のおもひをなして悪業煩悩にをそれて
4　業障をはち給ふへし次にせつりこしのさんけ
5　と云は正法をもつて国をおさめ六斎日物の命を
6　ころさす父母に教養するを申也正法をもつて国
7　をおさめるといふはまつり事たたしからねは天
8　下みたる天下みたれぬれは万民のなけき也民の
9　なけきすなはち罪業なりまつり事のあしき
10　は今世後世のたたりなりされは魏の文帝は六斎

下32ウ

1 日に物の命をころしたまはすむかし小沙弥の有
2 けるかありのひとつ水になかれけるをとりいけたり
3 しによりて今生の命のひたりきやしや長者は
4 ひつり池にすめる魚をとりて大海にはなちたるゆ
5 へに長者の徳をあらはすされは八幡大菩薩の御
6 母神功皇后の異国たいちの御時おほくのせつしやう
7 をつくらせ給ひしかはその群類をすくはんために
8 すくなき水にすめる魚をとりて大海にはなち
9 給へり今の放生会のまつりことこれなり放生会と
10 はいけるをはなつゑとかけりたとひちいさきかた

下33オ

1 ちをうけたるものなれとも命をおしむ事は泰山
2 よりをもしたとひ畜類にむまるるといへとも子を
3 思ふ事は人界よりもすきたりかへすかへす物の命
4 をころさすしてよくよくあはれみ給ふへし物の
5 命をたすけぬれは亀雀にいたるまてもその恩
6 をしりてかならすかならす後の世にむくふ也これ程の
7 事はいかなるしつのめなんともしりたる事なれと
8 もしりなからしらぬなりされは仏も重説偈言
9 とて一たひとき給ひし事なれともかさねかさねの
10 へ給ひしはよく衆生の耳にききたもたせんかため

下33ウ

1 なりこまかに申にをよはす又ちちははに教養して
2 仏になるへしと申はさんけの中の第一のさんけ也
3 ちちのおんのたかき事はしゆみせんのことしははの
4 とくのふかき事は蒼海ににたり白き骨は父の
5 恩なり赤き肉は母の徳なり人むまれて母の乳
6 をのむ事百八十石也水中のかめの子をみる眼しも
7 夜の鶴の子を思ひて鳴こゑいつれもおんあひ
8 いとふかしいはんや人倫にをいてをやわか身にかへ
9 て子を思ふためし少少申へし漢の高祖楚の項
10 羽とたたかふ程に高祖のかたに石奢といふつはもの有

下34オ

1 項羽石奢かははを取こめて汝か子石奢を我かた
2 へよはすは命をたつへしといひけれとも項羽は
3 天下をたもつましきさうありとみて子には

4 たた高祖につかへよわれは命をすつといひをきて
5 つるきにおちかかりてうせにけりされは心地観
6 経には世人為子造諸罪堕在三途長受苦と
7 とき給へり此心はよの人は子のためにもろもろ
8 のつみをつくりて三途におちてなかくくるし
9 みをうくるそとの給へり又吾朝武蔵の国に
10 むかしひまろといふものありおもはしきめをもち

下34ウ

1 もちたりけるか国司の京上しけるともしての
2 ほるへきにて有けるに此めをすててのほらん
3 事をかなしみてきんきのよしをいひてのほらし
4 とて母を山の中にくして行てころさんとする
5 時大地にはかにわれてかのひまろおち入けるを
6 もととりをとりて引あくるは母也子の大地へお
7 ち入事をかなしみてわかいのちのうせん事をは
8 をそれすかたきとなれる子をひきあけしはいと
9 わりなくそおほゆるくはしくはひまろか伝にみ
10 えたりこれほとに心さしの浅からぬおやの

下35オ

1 ために教養せさらん人あらんやしかりといへとも
2 天人はたのしみにふけりて教養の心さしなくして
3 三途のくるしみにせめらるる也されは仏は御母の
4 けうやうのために忉利天にのほり報恩経をと
5 き給ひし也極楽に往生したる衆生にむかひ
6 てふかゑんなうのいはくちちははけうやうの往
7 生かしちやうふしの往生かととふなりされはちち
8 ははけうやうの心さしをもつて極楽に往生
9 せん事これにてもしるへしこれせつりこしの
10 さんけのたいいなり仁明天王は一年か間のつみ

下35ウ

1 をさんけせんとて年のはてにかならす三千仏を
2 御名をききてそ罪障をさんげし給ひけるこれ
3 を仏名となつけていまにたえすむかしいま
4 の人此心をおほく歌によめる
5 平兼盛
6 あら玉の年もつくれはつくりけんつみは残らすきえやし
ぬらん

7　みなもとの仲綱
8　過にしも後もしらるる身のうさにみよの仏のなつかしき
　　哉
9　第七にもろもろの施を行すへしと申は諸仏は
10　みな施をほどこして正覚を成給へりこれを

下36オ

1　檀波羅蜜といふ竜樹菩薩は施を行する人は
2　月のはしめて出るかことし諸人にうやまはるると
3　の給へり国城妻子をすてん事草木よりもかろ
4　く頭目手足を施する事土石よりもやすくす
5　へしここをもつて法花経には国城妻子頭目髄脳
6　身肉手足不惜身命ととき給へりこの心は法の
7　ためには国処女子〈めこ〉はいふにおよはす五体六根をよ
8　ひ命をもおしまされとをしへ給へりされはじひ大
9　王は鳩にかはりてみつからのししむらを鷹にあ
10　たへさつた王子はうゑたる虎にわか身をほどこし

下36ウ

1　せつせん童子は無常の文に命をかへ舎利弗尊
2　者はまなこをぬきてこつげん波羅門にとらせ
3　し也これならす施に心さしの有人少少申へし
4　阿闍世王仏をむかへまいらせて説法させたてま
5　つりて夜に入て仏の御かへりありけれは阿闍世王
6　宮より祇園精舎まて火をともし給ひけるに貧
7　女の銭弐文もちたりけるかこれをあふらにかへて
8　ともしたりけるかゆへに三十一劫をへて仏になる
9　へしとて須弥灯光如来とそさつけ給ひしこれを長
10　者の万灯より貧女の一燈とは申なり後の世は申に

下37オ

1　をよはす今生に徳をあらはす事おほきなり
2　天竺にゑしあり伽毘羅城にしやうようをえて
3　行ぬ妻子たちゐにまつ程に世の中を過わひて
4　ゑしのかへるをたのみておほくの人の物をかりてつ
5　かひて月日ををくりけるにゑし十二年といふに
6　金を三十両えてかへるに道のほとりに堂のありけ
7　るに仏に薄ををさんとて金をすすむるひしりあり
8　ゑしおもひけるは家にもちてかへりてはたた今生の
9　たからにてあらんすれ仏にまいらせて生生世世

10 のたからになさんと思ひて此金を仏にまいらせけ

下37ウ

1 る手をむなしくして家にかへりけるに妻子よろ
2 こひて何をかもちてかへりきたるととへはありのまま
3 にかたりけるを聞て此ほとたのみまちつるかひも
4 なく今ははやまとひものに成ぬとかなしみなけ
5 くをおほやけに此事をきこしめして心おほき
6 なる物なり国のつかさしるへしとて国のかみに
7 なし給へり今生の利生かくのことし後生のうつた
8 へおもひやり給ふへしされは仏の御はたへの金色
9 なる事はゆをわかして人にあひせ給ひしゆへ
10 なりここをもつて光明皇后はゆをわかしてみつ

下38オ

1 から人の垢をすり給ひけるにおそろしけなるかつ
2 たいのわかあかすりてたへといひけれは願をやふ
3 らしとてひそかにあかをすり給ふとて此事人に
4 ないひそとのたまひけれはかつたい又阿閦仏の
5 あかすりたりと人にないひ給ひそ后とてかきけ
6 すやうにうせけりされは阿閦仏変化し給ひてか
7 の心さしの程を心み給しなり仏施のくとくをほめ
8 給ふに十方の国土をちりとなしてその国の草木
9 瓦礫としり三千世界の水を大海にいれてその
10 河の水とはしるとも施のくとくはたやすくかそ

下38ウ

1 へつくすへからすとの給へりされはくひ物を人
2 にあたふるは五の徳をあたふるといへり一には命二
3 には色三には力四にはやすらかなる事五にはこと
4 はなりこの五の事は物をくはされはいつれもかな
5 はすかうけんしゆといふ木のみはけしよりもちい
6 さけれとも一夜に百丈おひのほりてそのかけ
7 に五百両の車をかくす施のくとくはかのことし
8 少しきくとくなれともかならす地こくにてお
9 ほきなるたすけとなれりされは獄卒罪人
10 にむかひてなとくとくをはせすしてならくの

下39オ

1 古郷へはかへりたるとそといへは罪人貧苦無福

2 にしてたからをほしかりしゆへにすこしの善根を
3 もなさすといへは獄卒いかれるまなこを見ひら
4 きてはけしきこゑをあけていはくいたつらに
5 野辺にさきし花一枝仏に施したてまつらん
6 心さしまつしきによるへからすむなしく谷に
7 なかるる水一むすひ僧に供養し施さん事た
8 からのなきによるへからすとそ申けるはやく一
9 花一水なりとも仏法僧に施して仏になり
10 給ふへし

下39ウ

1 第八に観念をおこして仏道をいのると申は
2 祖師先徳みな観によるかゆへにみな得道せし
3 なりたとへは将軍になりたる人の翠帳のうち
4 に臥なからはかりことを万里の外にめくらし天
5 下をおさむるかことしかしこき人は柴のいほり
6 の内にゐなから十万億のほかなる極楽浄土
7 のゑほう荘厳を観して往生の本意をと
8 くる物なりされは浄土しやうせつは観念のたな
9 こころのうちにありといへりあるひは弥陀如来
10 の功徳池のほう蓮台にさしてはるかに光明

下40オ

1 をはなち給ふ事を観しあるひは七樹宝樹の
2 下に観音勢至の二菩薩大ほんわかの御声
3 して説法し給ふ事をくはんしあるひは紫雲
4 にのりて西方にあらはれ給ふを観しあるひは
5 六十万億那由他恒河沙由旬の大身を観し
6 あるひは眉間白毫の五しゆみのやうなるを観
7 しあるひは宮殿楼閣の飛行するをくはんし
8 あるひは上品蓮台の暁のたのしみ声をくはん
9 しあるひは鳧雁鴛鴦の五根五力の法文を
10 さえつるを観して八十億劫の罪障をのそき

下40ウ

1 てつゐに安養しやうせつに往生するなりくはし
2 く観無量寿経にとき給へりこれを十六相観
3 といふあるひは諸法の空寂なる事を観しある
4 ひは此身の不定なる事をくはんしてみな往
5 生極楽の因とするなり真如実相を観すると

6 いふは心仏及衆生のおもひをなして是三無差
7 別と観するなりこの心は心と仏と衆生とこ
8 の三はしやへつなしとくはんする也一切衆生悉有
9 仏性如来常住無有変易とのへ給へりこの
10 心は一切の衆生はことことく仏性あり如来

下41オ

1 常住にして変する事なしといへりこのゆへに
2 心ある人はみな一色一香無非中道と観して
3 真如実相一つなりとしるなり不軽菩薩の不敢
4 軽慢とおかみ給ひしも一切衆生仏性をくしたり
5 とくはんし給ひしなり生あるものはいつれか仏性
6 をくせさるへき我等かむねの中に本覚の心法
7 身の妙法の蓮台にさして三十七尊かた時も
8 たちさり給ふ事なししかりといへとも生死
9 長夜のやみふかくして本有常住の月の光を
10 かくし四智円明の鏡にちりつもりて三身

下41ウ

1 満徳のかけうかふ事なしされは大集経には菩提を
2 はなれ一法ある事なしとをしへ給ふなり我も
3 仏人も仏なりとくはんして真如実相一つとし
4 り給ふへきなりむかし僧多羅と申ける法師
5 あり無智もんまうにしてさとる処なしたた口
6 には三十七尊ちうしんしやうととなへ心には真如実
7 相の思ひをなすより外別の行なし命終の時
8 天衆来迎し給ひて都卒の内院にむまれぬ
9 此せうをみて不空三蔵つねに帰命本覚真法
10 身常住妙法心蓮台本来具足三身徳三十

下42オ

1 七尊住心城ととなへて真如実相を観し給ひ
2 けるを弟子あやしみてかはかり不浄なる身の
3 中に三十七尊妙法の心蓮台にましますらん
4 こそうたかはしけれといひけれは三蔵仏の御まへ
5 にして此くはんねんをなし給ふ時三十七尊む
6 ねの間にあらはれて十方にひかりをはなち給ひ
7 き弟子これをみてうたかひの心をひるかえし
8 随喜の涙をなかしき木には春花さきて秋こ
9 のみをむすふ木をわりて見れは中には花も

10　なしこのみもなししかりといへとも縁のいたりぬれ

下42ウ

1　は花さきこのみをむすふ人の身のうちをみれは
2　妙法の蓮台もなく三十七尊も住したまはす
3　しかりといへとも真如実相を観すれは三十七尊
4　あらはれ給ふ也たとへは大海の底にある石に
5　火のせいありといへとも無量歳をへても火の
6　せいをあらはす事なししかれとも人此石をとり
7　あけてひうちといふ物をあつれは火を出さす
8　といふ事なし三十七尊又又かくのことし観念せ
9　さる人のためには大海のそこの石のことしはや
10　く観念をいたして心の月輪かたちをあらはし

下43オ

1　たまふへしたたし此観念をなましひの智者
2　なとはかなふへからすしかりといへとも仏
3　と衆生と一つなりと観念すへしひとつの
4　たとへを申へし人のおやとをき所へゆきて
5　大事のやまひをうく二人の子をもちたるに
6　一人の子はゐたる所ちかし一人の子はゐたると
7　ころとをしおやのもとよりやまひするよし
8　をつけけるにちかき所にゐたる子ははしりいてて
9　おやのもとへ行けるにあまりに雨ふり日もく
10　れて夜に入けれは行さきも見えすおそ

下43ウ

1　ろしかりける程に塚穴のありけるにいりて夜あけてゆ
2　かんと思ひてゐたる所に今一人の子はゐたる所とをく
3　して後にゆきけるかこれもあまりにくらくて夜
4　をあかさんと思ひてかの穴に入ぬるところにもと
5　入たる子はおにのくらひにきたると思ひて心を
6　まとはすいま入子は穴のうちにおに有てわれを
7　くらはんとするとおもひてきもつふすかくて二
8　人の子本性をうしなひてゐたるほとにやう
9　やう夜もあけて心をとりしつめて見れは兄弟
10　なり衆生もかくのことし生死長夜にまとひ

下44オ

1　無明の鬼ありとおもへは善根の暁になりぬれ

2 とも真如実相一つなりとしるなり悪業煩悩
3 のまなこのまへには仏と衆生と差別あ
4 りと見れ共真如実相をさとりぬれは心仏
5 及衆生差別なしとしるなり又空観と申は
6 色即是空のおもひをなして諸法をむなし
7 とする無大無小の観をいたして一切ありとお
8 もはぬなりされはふるき詩にもかくこそつく
9 りけれ身をくはんすれは岸の額に根を
10 はなれたる草命を論すれは江のほとりに

下44ウ

1 つながざる舟この心を歌によめる
2 世中をなににたとへん朝ほらけ漕行舟の跡の白浪
3 このゆへに人もむなしわれもむなしこれもむな
4 しかれもむなし万法みな空なりとくはんすへし
5 されは煩悩の草むらしけき中に悪業のこ
6 らうふすといへとも空観の火をつけぬれ
7 は煩悩の草むらやけうせて悪業のこら
8 ふすむ所なし此観いたりぬれはむしやうの
9 罪障はみなきえうせてつゐに菩提のきし
10 にいたれるなりむかし仏の御弟子道を行給

下45オ

1 ふに農夫二人して田をつくりけるか一人にはか
2 に死にけり今一人これをかなしめるけしきな
3 しふしきにおもひ給ひて此事をとはれけれは
4 農夫わか子也とこたふその時仏弟子他人のしぬるさへ
5 みれはあはれをもよほすなるにいはんやおんあ
6 いふかき子の死ぬるを見ていかてかなけきかなし
7 まさるととはれけれは農夫のいはく一とせ仏の説
8 法し給しに此身はむなしきものなりありと
9 おもふへからすととかせ給ひしなりされはいまさら
10 おとろくへからすといひけりあまりにふしきに

下45ウ

1 おもひてかの家に行て母に此事をいひけれは
2 おなしやうにいひてうちわらひてありけれはそ
3 の時仏弟子かかるいやしき田夫なりといへとも
4 空観をくはんける事ありかたさよと随喜の
5 涙をなかし給ひて心あらん人は諸法の空なる

6　事を観し給ふへし外道仏弟子にあひたてまつ
7　りて仏は諸法を空なりとのたまへともむかし
8　あるくるしみは今もありむかしあるたのしみは
9　いまはあり火はあつく水はさむし何をもつ
10　てか空なりといはんと申ければ仏弟子こたへ

下46オ

1　ていはく大焦熱地獄の衆生はくるしみ忍ひかたし
2　といへとも無間地獄の衆生のためには他化自在
3　天のたのしみを見るかことし金輪聖王の果報は
4　たのしけれとも四天王のまなこの前には等活地
5　獄の罪人を見るかことし人間の火はあつけ
6　れとも地獄の火にくらふれは水のことし娑
7　婆の水はさむけれともならくの水にくらふれは
8　火のことしたのしみもたのしみならすかなしみも
9　かなしみならすとその給ひけるはやく此思ひを
10　なして諸法皆空なりと観し給ふへきなり

下46ウ

1　又不浄観と申はわか身人の身も不浄なる事
2　を観するなりたとへは絵書たるかめの中へふんゑ
3　をいれたるかことし業平中将のよろつ貴賤男
4　女におもひをかけられしも西施か一たひえめは
5　千金をおしむ人なかりしもつゐには野のほ
6　とり河の間にすてられしかはそのすかたみ
7　なかはりしろきはたへはあをくくさりあ
8　かきくちひるはくろくなりてたたれやふれ
9　てむしわきいつるなりいぬは手あしをくらひて
10　西南にはしり烏はまなこをくしりて東

下47オ

1　北にとふくさき香をとをくにほひおこせはあたりに
2　ちかつく人もなしつゐによもきかもとのちりと成
3　て白骨はかり所所にのこれり心あらん人たれかこれ
4　に着心をなさんやと此観念をなさん時かならす
5　むし生死の罪障ことことくめつするなり此ゆへ
6　に恵心僧都は不浄観をなさんと思ははつね
7　に墓のほとりに行て死人のかはねを見よとそ
8　のたまひける観念によりてつみもかへりて功
9　徳と成事ありされは仙預王は仏をもちひぬ

10 もちひぬものをころし東光梵士はおもひかけ

下47ウ

1 てあはすは身をなけんといひし下女をおかしけり破
2 戒なりといへとも観念によるかゆへに浄土の縁
3 となる也されは弘法大師は智者のつくるつみ
4 はおほきなれとも地獄におちす愚者のつくるつ
5 みはちいさけれとも地獄におつとおほせられける
6 これすなはち観念によれるかゆへなり煩悩即
7 菩提といひ因欲即是道愚痴亦如是ととける
8 もこれなり昔達磨大師天竺にて修行し
9 給ひける時無智の僧二人ありけるか碁をう
10 つより外の事なし見る人これをにくみきく物

下48オ

1 かれをそしる達摩しつかにこの事をとひ給ふ
2 とき二人の僧こたへていはくくろの死する時
3 は黒煩悩のうすることをよろこひしろのし
4 する時は白ほう善根のめつする事をかなし
5 みて無上菩提を観念するなりと申けるに
6 あはせて命終の時聖衆来迎のそくはいをと
7 けたりきされは観念をもつて往生せん事う
8 たかひあるへからす仏忉利天より一夏九十日過て
9 天竺へかへり給ひて我をはたれかはやく見つ
10 るとおほせありけれはそしき比丘こそ一番

下48ウ

1 におかみたてまつりつれと申けれは仏の給ひ
2 けるは須菩提か石室に入て坐禅して空寂
3 を観せしより外に我をとくみたるものなしと
4 ありし時みな不審にそ思ひける仏は若以色
5 見我以音声求我是人行邪道不能見如来
6 の心をもつておほせられしなりされは禅法修
7 行こそたれもあらまほしき事なれとも心なし
8 あさくてはかなはぬ事なりしかれとも心あらん人
9 はねふりをさまして観念をいたして仏と衆生と
10 へたてなき事をしりたまふへし仏と衆生とへ

下49オ

1 たてなけれは地獄も極楽もへたてなく獄卒

2 罪人のへたてもなしよくよく修行し観念し
3 て大涅槃に入給ふへし
4 第九に善知識にあひて仏になるへしと申は
5 一生涯の間十悪五逆をおかせる人命終の時になり
6 ぬれは阿防羅刹火の車をくしてまなこのまへ
7 に現すといへとも善知識のをしへによりてもしは
8 十念もしは一念弥陀の名号をとなへ又くるしみに
9 せめられて口にとなへすといふとも西方にむかひ
10 てそなたに仏ましますと心のうちに思へは火

下49ウ

1 の車たちまちにうせて花のうてなのまへに現
2 す此ゆへに法花経にも善知識者是大因縁とは
3 とき給へり阿弥陀如来はなたいゑ国の無静念
4 王と申せし時法界梵士のすすめによりてくう
5 わう仏にたてまつり給ひて仏道をきはめ有縁無
6 縁の衆生をもらさすすくひ給はんとの御せいくは
7 むふかくおはしませは末法万年まて弥陀の一
8 教をたのみ給ふへきなりされは後の一條院
9 の御とき宇治殿頼通の延暦寺へ人の仏道なる
10 へき要文を諸経の中にてしるしまいらせよと

下50オ

1 おほせつかはされけるに若有重業障無生浄土因
2 乗弥陀願力必生安楽国極重悪人無他方便唯
3 称弥陀得生極楽三塔の学匠たちあつまり
4 て此文をかきぬきてそたてまつられけりまこと
5 に我等濁世末代に生をうけて過去をんをんの
6 諸仏にもすてられまいらせて無始生死より
7 六道に輪廻して大くなうをうくる身を他の
8 方便かなはされとも弥陀を称念せは極楽へむ
9 かへんとちかひ給ふ御慈悲をいかなる人かたのみた
10 てまつらさるへき諸仏の御せいくはんいつれも勝劣

下50ウ

1 おはしまさねともとりわき弥陀の願力にすき給
2 ふへからすされは阿闍世王は父をころし給ひし
3 かとも耆婆大臣のをしへによりて霊山の聴衆
4 につらなり給ひて成仏し給ふ又不動国の
5 こんしゆ太子のうき事にあひて出家せしをは

6　仏は善知識にあへる人なりとそおほせられける
7　我朝にもかやうのためしおほしみなもとの満仲
8　はあまりに罪ふかくて仏法の名字をしらぬ事を
9　かなしみて源顕法眼と申し子のありしは延暦
10　寺より恵心僧都そのほか座主なとをかたらひ

下51オ

1　多田の家に行て物かたりともをさせけれはかの満
2　仲ことはりを聞てやかて道心をおこし法師に
3　成て夏かひの鷹三百もとはなちおほくの網
4　ともやきすててなかく殺生をとめて仏を
5　あかめたてまつりけりこれらをまことの善知識
6　にあへる人と申なり又みなもとのかねなりかおも
7　はしきつまをもちたりけるか二三日か程なる所へ
8　行けるにやかてかへらんするよしをかへすかへすかた
9　らひをきて程なくかへりて見れはめんめんはかと
10　にたちてなきかなしむほとにいかなる事そとい

下51ウ

1　ひけれは御まへはよへうせさせ給ひてやかて鳥
2　部野へをくりまいらせぬといふを聞心もうせまと
3　ひふむところもおほえさりけれともすなはち
4　野辺に行て見れはなかやかなる髪つきな
5　からあたらしきかしらを犬かかへてくらひのし
6　るをみていのちもうせぬへくかなしかりしかとも
7　心を引かへて法師に成てかくそよみける
8　ありしこそかきりなりけれあふ事をなと後の世と契らさ
　りけん
9　かくてなかく仏道を修行しけり大江のさたもとか
10　おもはしき妻にをくれて法師に成てもろこし

下52オ

1　まてまかりけるか母のために高雄の寺にて八講
2　おこなひてせいせう法橋をしやうしてせつほうさ
3　せけるめいく日の東にいてんをみては母の古郷に
4　ある事をわすれされ月の西にかたふかんをみては
5　上人たのくににある事をおもひ出よといはれしを
6　きく人有かたく忍ひかたくや思ひけんあるひは
7　車のうちより髪をきりて出すものもありある
8　ひは笠の下よりもととりをきりて出すものも

9　ありかれこれ五百余人ありかくのことくうきめを
10　見かなしき事にあひて出家とんせいするものを

下52ウ

1　は仏は善知識にあへるものなるそととき給へる
2　はやくいそき善知識にあひて年の若き時つ
3　とめ行して仏に成給ふへし
4　第十に臨終に悪念をととめて仏に成へしと申
5　はたとひ竹馬の時より八十あまりにをよふまて
6　にんにくしやうしんして念仏しよきやう恭敬礼
7　拝するとも臨終の時一念の妄心をおこせはかな
8　らす生死に輪廻すへきなりある長者のこか
9　ねのかまをもちたりけるを臨終の時一念おしと
10　思ひしによりて大蛇となりてわたかまりぬ又

下53オ

1　舎衛国の女かかみをみて我影よしと思ひしゆへに
2　かつかいのなかのむしとなれりされは臨終のときお
3　もはしからんめこなとや心とまりぬへきたからな
4　とをはみすへからすとは申ぬれむくう律師は天井
5　に廿貫文のれうそくをきたりしを臨終のとき
6　あなかちおしとはおもはねとも何となく思出しける
7　ゆへに蛇になりて天井にすむ年ころのたんな
8　枇杷の大臣の夢にわれ命終の時一念の妄心によつ
9　て天井にをきたる銭の中にありはやくかの銭をと
10　りて三宝をくやうせよと見えけれは大臣夢

下53ウ

1　さめてやかて律師の坊に行て天井を見れは廿貫
2　文のれうそく有其中にちひさき蛇あり大臣
3　涙をなかしてかのれうそくをもつて法花経をか
4　き供養したてまつりける夜の夢に此くとくに
5　よりて得脱しぬるよしをいてそののちは蛇見えす
6　されは花をのみあいするものは胡蝶になり鳥
7　をかふものは畜生にむまるるなりはらない国
8　に頭陀と云人のありけるか仏に申さくいか
9　なれは百年功徳うくる物の地獄におち百年
10　つみをつくる物の仏になると申けれは仏つけ

下54オ

1 てのたまはく百年くとくをつくるものの地獄に
2 おつる事は臨終の時悪念をおこすゆへなり
3 百年つみをつくる人の仏になるは命終の時弥陀
4 を称念するゆへなりとそおほせありける此ことは
5 りをしりて夢まほろしの世中をいとひて
6 心をととめ身をおしますして一すちに弥陀
7 を称して往生のそくはいをとけ給ふへきなり
8 第十一に法花経を修行して仏になるへしと
9 申は三世の諸仏出世の本懐一切衆生成仏
10 の直道は此経なりされは五障の女人も仏

下54ウ

1 になれるなりしかるに此経をかきくやうしける
2 れうしを市にてかいたる女人さへ冥途のやみ
3 はれぬ硯の水を入るるけちえんさへ地獄のほの
4 をきゆる也無二亦無三法花経第一ととき給ふ
5 わたりに舟をえたるかことく子のははにあへるかこ
6 とくにたのみてはやく受持読誦解説書写し
7 て仏に成給ふへし一聞法花経決定菩提
8 といへりよくたもちをこなひて往生の願をとけ
9 給ふへきなり仏も歓喜し神も随喜し
10 給ふなり此ゆへに伝教大師これをかうすれは

下55オ

1 八幡大菩薩むらさきのけさを施し空也上人
2 これをよみしかは松尾の大明神寒風をふせ
3 き給ひきいはんや後の世のたすけとなる事申
4 にをよはすあたこのじやうじんあさりはあかつき
5 法花経をよみゐたりけれは都卒天人道場
6 にたちそひけるにかたはらの坊の人の目に
7 見え給ひけれはみなふしきにそ思ひけるこれは
8 ことにちかき事にあらすやむかし提婆菩薩
9 獅子国にましましてある海のほとりをとをり
10 給ふとて見給へは五百餓鬼ありかれらくるしみ

下55ウ

1 のあるよしをなけきけり聞につけ見るにつけて
2 あはれにむさんにおほしめして法花経を一品は
3 かりよみ給ひけれは餓鬼聴聞してかなしみの

4 なみたをなかしておかみたてまつりけりそののちほ
5 さつの夢に五百の天人さうがうたんごんにして
6 身にはみめうのやうらくをかけそらより来りては
7 我をおかみける程にあやしみていかなる人そと
8 とはれけれは天人こたへていはくわれらは獅子国
9 に百千劫の間よにたへかたきくるしみをうけたりし
10 餓鬼ともなりしか菩薩の法花経をよみ給ひ

下56オ

1 しを聴聞したりしゆへにみな忉利天に生まれたる
2 なり今よりのちは悪道へかへるへからす仏道を
3 修行すへしとよろこひけりされはうはなり
4 のよむ経をとりつきたりし結縁さへ天より光を
5 はなつはやく信をいたしてよみ給ふへきなり
6 又後の世までは申にをよはす関白よりみちは
7 具平親王の御むすめをすてて三條院の御むこ
8 になり給ひしに関白御物のけの病をして大事
9 に成たまひける間験者には心誉僧都みやう
10 けん阿闍梨陰陽師には賀茂のみつよし

下56ウ

1 安部のよしひらなとまいりてこゑをたてちから
2 をつくししかともしるしなくてすてに引きいり給ひ
3 しによりみちの御父おむろの関白道長みつから
4 法花経の寿量品をかみ一まいはかり二三返よみ
5 給ひてかほにかほをあててなき給ひけれはより
6 みちのもとの御しうと具平親王のあらはれ給
7 ひてたれも子のいとをしくかなしさはおなし
8 事なり我はかなくなりて後わがむすめをすて
9 たよりなく物を思はせ給ふかうらめしけれはた
10 すけたてまつらしと思へとも法花経にかたさり

下57オ

1 たてまつりて此たひはかへるなりとその給ひけるさ
2 てもとの北の政所へ御迎車をまいらせて此よし
3 を申させ給ひたりけれはおんあいの道はこの世は
4 かりといひなから草の陰までもこれ程にあさから
5 すおほしめしけるよと御涙にむせひ給ひて
6 おはしけるをやうやういさめまいらせ御車にのせ
7 られていらせ給ひぬよりみちの御やまひもなを

8 今にいたるまて関白殿下と申はその御子孫なり
9 悪霊邪気もをそれたてまつるは法花経なりい
10 かてか冥官冥道もかたさりたてまつる事なからん

下57ウ

1 されは現世安穏まのあたりにせうこあり後生善
2 処なをうたかひあるへからす無二亦無三のこころを和泉
3 式部かよめる
4 ふたつなくみつなき法を聞つれは五のさはりあらしとそ
思ふ
5 藤原のきよすけの朝臣のよめる
6 ふたつなきみのりの舟そたのもしき人のさらても渡すと
思へは
7 かへすかへす此経をしんかうしたてまつりて仏道を成し
8 給ふへし
9 第十二に弥陀を称念して極楽に往生し給ふへし
10 と申は恵心僧都の往生要集には五ねんもん

下58オ

1 をたてたり諸仏菩薩も仏道をもとむる人をは
2 阿弥陀仏ここへまいれとをしへ給へり薬師は八菩
3 薩をして極楽へをくらんとちかひ給ふ観音は
4 わか本地阿弥陀如来を念したてまつれとをしへ
5 給ふなりしかのみならす諸教所讃多在弥陀と
6 て八万聖教の中にも弥陀の功徳すくれたりとそ
7 ほめたてまつりけるもろもろの菩薩仏に申給ふ
8 やういかにしてか濁世末代の衆生たやすく仏に
9 成へきととひたてまつり給へは仏のたまはく百
10 八のもくれんしゆをつらぬきて弥陀の名号をとな

下58ウ

1 へよとそおほせありけるかへすかへすうたかひをなす
2 事なくしてある時は西方にむかひて礼拝して
3 ある時は声をあけて名号をとなへある時はま
4 なこをふさきて弥陀の光明を観せよ頭のかみに
5 火のつきたるをけつることく後の世のいとなみをす
6 へしあすをまつ事なかれたとへは人の道をゆかんに
7 ぬす人にあひてものをとられしとてにけはしるに
8 跡よりぬす人をいきたる程におほきなる河あり
9 きたる物をぬきて渡らはぬかんほとにぬす人をい

10　つくへしきなからわたらは河におほれてやしなん

下59オ

1　すらんと思ふことくおもひましゆる事なく弥陀を称念
2　し極楽をねかふへきなりたとへはたのしき人の子のあや
3　しの人にぬすまれて外の国にゆきてしもへと成てつか
4　はるるかいかにもしておやのかたへゆかはやと思ふかこと
　く
5　弥陀を称念して極楽へ往生すへし善導和尚の
6　定にいりて極楽を念し給ひけるには弥陀如来かなら
7　す現して物かたりし給ひける此よしをきき導綽禅師
8　の往生すへき事をとひたてまつり給ひけれはたとへ
9　をとりてをしへ給ひけり木をきる時ははやく斧
10　をくたせ家にかへらんおりはつかれを忘れよ木をきる

下59ウ

1　に斧ををそくくたせははやくきるる事なし家にかへる
2　につかれをおもひて道にやすみぬれはをそくかへる
3　なりされはおこたる事なく道を行かことく弥陀を念
4　し極楽をねかふへし極楽を念するひしりに人
5　の物をとひけれはたたいま一大事ありとそ申ける
6　極楽をねかはん人はかのひしりのやうにこそあらま
7　ほしき事なれ又天竺震旦の事は申すにをよはす
8　吾朝にも行業をつみて往生のそくはひをとけ
9　し人おほしことくしるしつくすへからすしかれとも
10　これも念仏年つもりたる人ともなれはことはり

下60オ

1　なりたた一念のちからによりて往生したる人の事は少少
2　申へし讃岐国多度の郡に源大夫といふものあり
3　狩せんとて野に出けるかしくれのしけれは人里のある
4　ところにはしりゆきて見れはおほくの人あつまり
5　て寺にてかうをこなひけるをこれは何事をする
6　そととひけれはかうおこなふよしを申けるかうとは
7　何事そととへは仏に物を申なりといふ仏とはいかなる
8　ものそといひけれはかうおこなひける僧仏とはこ
9　れより西方に極楽といふ国のあるしとておはし
10　ますなり阿弥陀仏といふその御名をとなへて心

下60ウ

1 にかけたてまつれは命のおはる時かならす来り給ひ
2 て極楽へむかへ給ふなりといひけれはいささらはわれ
3 もゆかんとて法師に成て西にむかひて阿弥陀仏
4 阿弥陀仏ととなへてあゆみさりぬかうおこなひける僧あま
た
5 ふしきに思ひて其跡つきて見をくりけれは海のほ
6 とりに松の木のあるにのほりて西にむかひて死に
7 たりちかくよりて見れは口より青蓮花おいて異香
8 くんしてそありけるされは心さしせちにあれは一
9 念の功力にてかならすかならす往生すへきなりされはふ
10 るき詩にもかくこそつくりけれ十悪といふともなを

下61オ

1 引接す疾風の雲霧をひらくよりはなはたし一念と
2 いふともなを感応す巨海の涓露をいるるにたとふともかき
3 給へりされは此心は十悪の衆生をもみちひき給ふ
4 事は風の雲霧をはらふよりもはやし一念の衆生
5 をもすくひ給ふ事は大海のすこしきなかれをいと
6 はさるかことしといふなり十悪五逆のものさへ弥陀の
7 ひくはんにはもれすいはんや弥陀をたのみたてまつり
8 一生の間称念せんものにをのにをいてをや弥陀
9 如来観音勢至をくし給ひて来迎引接し給はん
10 時をおもひやり給ふへし万徳荘厳の教主西方

下61ウ

1 にあらはれ九品蓮台の聖衆紫雲ののりて斜
2 にくたり光明かくやくとして十方世界をてらし
3 異香ふんふんとして草木みな沈檀のにほひを
4 なす観音法蓮台をかたふけ給ふ勢至手をさつ
5 けて引接し給ふ妓楽かやうのこゑ耳にみちむしゆ
6 の天衆まなこにさへきり宝のはちす雨ふりて柴
7 のいほりをうつみさんだんのこゑ歓喜の涙をもよ
8 ほす也すてに仏の心にしたかひ聖衆の中にま
9 しはりしゆゆの間に安養の宝池にいたり無量
10 のたのしみをうるなり八功徳池には四色の蓮華

下62オ

1 ひらきて色色の光をはなち七重宝樹には花さ
2 きこのみむすひて聖衆かけにあそひ給ひ鳧雁

3　鴛鴦さへつりせうちやくきんくごは微妙音楽をと
4　とのへ琵琶ねうどうばつはきいのしらべをそうす
5　波の音風のこゑまて仏道場進の妙文をとなへ
6　一切草木はみな栴檀の匂ひをなせりむかしつたへききし
7　御法文を直に耳にふれいにしへ観せし御姿まのあたり
8　おかみたてまつり十方世界に遊行して三世の諸仏
9　を供養し七世のおんしよをみちひき有縁無縁を
10　とふらふ称讃浄土経には百千くてい那由他劫をへ

下62ウ

1　無量千くてい那由他のしたをもつて一一の舌のう
2　へに無量の声をいたしてほむともほむとも弥陀の名号
3　のくとくをはほめつくすへからすと申けり往生要
4　集の十楽をしるすに百千万のたのしみなりとも
5　十楽のうちの一つにはをよふへからすといへりされはあ
6　やしの舌のはしにて中中申さん事こそをろか
7　なれかへすかへす弥陀を念してかはかりめてたき浄土
8　へまいり給ふへきなり心ある人の極楽をねかひし事
9　を歌にて申へし
10　いかにして蓮の花にやとりなん世をうき葉にはすむかひ
もなし

下63オ

1　極楽の蓮の花の上にこそ露のわか身はをかまほしけれ
2　右大臣かねさねかよめる
3　花はみなあかぬ中にもこん世までゆかしき物は蓮なりけ
り
4　かやうに此僧かたりはてて南無西方極楽世界弥陀
5　如来来迎引接たかへ給ふな南無九品蓮台清
6　浄大海衆如来とともに迎へ給へとて夜のあく
7　るとひとしく行方しらすなりにけりのちにこれ
8　を思ふにひとへに嵯峨の釈迦如来かりに一人の僧に
9　現し給ひてしめし給ひけりとしりぬされはまえん
10　は人の目をはまよはせともかけをはしらすわれらも

下63ウ

1　つとめをこなははうたかひ有へからすたとへは金をのへて
2　ふたつのうつわ物をつくりてひとつをはしやうしやうにし
3　てのこひみかけはいよいよひかりをまし今ひとつをは
4　すてをきてきよむる事なけれはひかりなくなりて

5 見るところはへちなれともそのこかねのまことのたいは
6 ひとつなるかことく三世の諸仏三身万徳のくどくは
7 われも人もそなはりたれとも妄想不浄のちりにまし
8 はりていよいよ着心をなしてつたなき身となる也
9 仏は此ちりをはらひ給ひて禅定智恵をみかき
10 給へはくぎやう菩提をあらはして一切衆生は我身

下64オ

1 なりけりとさとりてわれら衆生をあはれみ給ふ也
2 まことにその実相はたた一なり衆生といひ仏といふは
3 まよへるとさとれるとのかはりめなり法性真如のことは
り
4 は十方の仏も一切衆生もくしたれとも妄念にまど
5 はされうたかいの心にとらかされて生死にしつめ
6 り此妄想をととめてわか身の仏性を観すへき
7 なり心さしいたりぬれはじねんに仏と衆生とへたて
8 なき所をさとりしるへし別に仏の子孫なしみな衆
9 生のうちより出給ふことに此観念は女人のすへき
10 事なりそのゆへは女人は難行苦行をも行せす

下64ウ

1 経論聖教をひらき見る事もかたき身なれは成仏
2 のえんすくなきなり心をおこし気にしたかひてあ
3 るひは一日二日あるひは一月二月もしは一年二年
4 もしは五年十年のあひたも観念をいたさは仏と
5 衆生としやへつなき事をさとりしるへきなりこれ
6 をそまことの仏道修行とは申める観はこれ智
7 恵のつるき欲煩悩のきつなをきる行はこれ禅定
8 の火たちまち生死のさかひをやきうしなふもの也
9 よくよく修行してなかく仏法のたからをまうけ給
10 ふへきなりいま人界をうくるものは宝の山に入

下65オ

1 たるかことしあひかまへて手をむなしくして三途の
2 古郷に帰る事なかれ
（この間五行分空白）
8 宝物集物語下

〈注〉

上3ウ6 「おこなひ」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」

上4ウ4〜6　振り仮名は、返り点の順に従う。「礼」の左下二点なし。
上5オ3　振り仮名「けす」の「け」は、虫食いで清濁不明。
上5オ7　「そば」の「ば」、濁点朱。
上5ウ1　「そば」の「ば」、濁点朱。
上5ウ4〜5　「おもむきて」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」。
上8ウ4　「わらぢ」の「ぢ」、濁点朱。
上8ウ6　「ざれども」の「ざ」、濁点朱。
上8ウ7〜8　「そばなる」の「ば」、濁点朱。
上9オ6　「しやうざん」の「ざ」、濁点朱。
上10オ8　「師馳」朱。
上10ウ6　〈ゆ〉朱。
上10ウ9　「おこたる」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」。
上11ウ8　「をどり」の「ど」、濁点朱。
上11ウ8　「あがり」の「が」、濁点朱。
上12ウ3　「ぐして」の「ぐ」、濁点朱。
上13オ3　「すつる」の「つる」朱ミセケチ、右傍朱「てつ」。
上13オ7　(記念)朱。
上15オ7　「給ひてに」の「て」朱ミセケチ。
上15オ10　「おもむく」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」。
上16ウ4　「そばより」の「ば」、濁点朱。
上16ウ9　「せばや」の「ば」、濁点朱。
上17オ7　「つゐで」の「ゐ」朱ミセケチ、右傍朱「い」。「で」濁点朱。
上19オ6　「をよふ」の「を」朱ミセケチ、右傍朱「お」。
上22オ3　「だいし」の「だ」、墨濁点の上に朱。
上22ウ9　「あぢわひ」の「ぢ」、濁点朱。
上28オ1　「衆人」の「人」ミセケチ、右傍「合」。
上29オ7　「禿」朱。
上30オ4　「せつか」の「か」ミセケチ、右傍「り」。
上30ウ2　「きかす」は補入。
上30ウ8　「大海にも」の「にも」ミセケチ。
上30ウ9　「せばき」の「ば」、濁点朱。
上34ウ9　「むすほられ」の「ら」朱ミセケチ、右傍朱「ほ」。
上35オ9〜10　「ひんく」の「ひ」ミセケチ、右傍「と」。
上36オ5　「なんぢに」の「に」補入。
上37オ5　「忍びかたしも」の「も」朱ミセケチ。右傍に朱あるものの、当該字虫食いにて判読不能。
上38オ8　「じやうはり」の「じ」、濁点朱。
上40オ10　「かづさ」の「づ」、濁点朱。

上44オ7　「じゆず」の「じ」と「ず」、濁点朱。
上44ウ8　「袂」朱ミセケチ、右傍に朱「ころも」。「にけり」に朱ミセケチ、右傍に朱「ぬなり」。「衣」に朱ミセケチ、右傍に朱「たもと」。
上49ウ10　「あたつゐに」の「あた」補入。
上50オ4　「しぼみ」の「ぼ」、濁点朱。
上50ウ8　振り仮名「をんかくは」の「は」ミセケチ。
上51オ　［やすし〜仏に］一行補入。
下1ウ9　「ことく」の「こ」ミセケチ、右傍に「く」。
下3ウ6　「あはれ」の右傍に、朱「アツハレ也」。
下3ウ8　「まづは」の「づ」、濁点朱。
下5ウ10　振り漢字「青蓮」朱。
下8オ5　「地獄」の「獄」朱ミセケチ、左傍に「蔵」。
下8ウ9　「のたまへて」の「へ」朱ミセケチ、右傍に「ひ」。
下11ウ3　振り仮名「しんしつ」極薄。
下12ウ3〜4　「ばらもん」の「ば」、濁点朱。
下18オ5　振り仮名「じやいん」の「い」、「け」に上書き。
下20オ6　「酒をかめ」の「を」ミセケチ、右傍に「の」。
下20オ6　「みるに」、行末左傍に補入。
下22ウ2　「うへし」の「へ」の右傍に小字で「く歟」。
下23ウ7　「六波羅蜜の」の「の」ミセケチ、右傍に「を」。
下24オ9　振り仮名「せん」朱。
下24ウ2　「むすひ」の「ひ」ミセケチ、右傍に「ふ」。
下27ウ4　「こうけい」朱。
下28ウ2　「とくごう」の「ご」、「げ」に上書。
下30オ1　「発露」「涕泣」朱。
下30オ3　「罪」朱。
下31ウ9　「あつけ」の「け」ミセケチ、右傍に「め」。
下32ウ10　「たとへ」の「へ」ミセケチ、右傍に「ひ」。
下41ウ5　「蚊虻」朱。
下51オ9　「はかと」の「かと」、「に」に上書。
下52オ3　「めいくに」の「に」朱ミセケチ。行の上に「明□歟」。□は「州」か。
下57オ6　「御事」の「事」ミセケチ、右傍に「くるま車歟」。
下61オ2　「巨海の」は補入。
下62オ5　「場進」の右傍に「そう増歟　ちやう」。
下63オ10　「まよはぬ」の「ぬ」ミセケチ、右傍に「せ」。
下64オ8　「子細」の「細」ミセケチ、右傍に「孫」。